

茨木市次世代育成支援行動計画（第 4 期）

実施状況報告書（案）

令和 4 年（2022年）10月

茨 木 市

目 次

I	概要	1
1	趣旨	1
2	P D C Aサイクルとは	1
3	P D C Aサイクル実施の流れ	2
II	第4期計画等施策(事業)評価シート	3
I	ライフステージごとの施策(事業)	3
	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実.....	3
	◇妊娠・出産期からの切れ目のない支援(いばらき版ネウボラ)	13
	◇子どもの健康保持・増進.....	14
	◇就学前教育・保育体制の充実.....	23
	◇子育て支援サービスの充実.....	34
	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援.....	48
	◇児童・生徒の健康への支援.....	53
	◇特色ある学校教育の充実.....	58
	◇様々な悩みに対応する体制の充実.....	64
	◇学校・地域・家庭の連携.....	68
	◇安全で安心な居場所づくり.....	76
	◇若者への自立をめざした支援.....	84
	◇就労の支援	86
	◇青少年の健全育成.....	88
II	社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり.....	94
	◇ひとり親家庭への支援.....	94
	◇障害児の健やかな育ちの支援.....	108
	◇児童虐待防止対策の強化.....	121
	◇外国人や社会的養護にある児童など配慮が必要な子ども・家庭への支援.....	123
III	仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり.....	124
	◇意識啓発	124
	◇職場環境の改善に向けた支援.....	129
IV	社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり.....	131
	◇子どもを産む・育てるための意識啓発.....	131
	◇支援ネットワークの充実.....	134
	◇安全で安心な育成環境.....	139
V	子どもの貧困対策	146

I 概要

1 趣旨

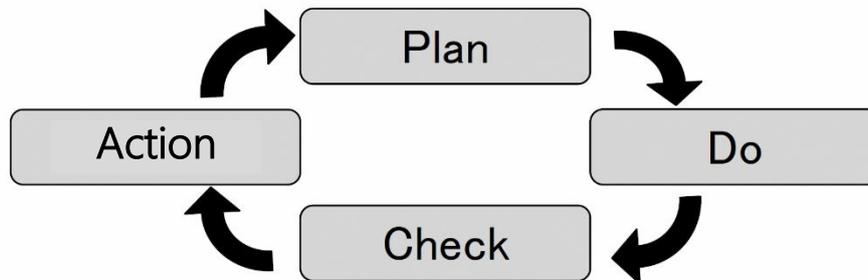
この報告書は、「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」（令和2（2020）年3月、以下「第4期計画」という。）における評価と課題をふまえ、「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」（令和2（2020）年3月策定、以下「第4期計画」という。）に位置付けた諸施策（事業）について令和3（2021）年度実績を分析及び評価した結果をとりまとめたものです。

2 PDCAサイクルとは

「PDCAサイクル」とは、さまざまな分野・領域において品質改善や業務改善に向けて、広く活用されているマネジメント手法で、「計画（Plan）」「実行（Do）」「評価（Check）」「改善（Action）」のプロセスを順に実施していくものです。

計画を立て、それを実行し、結果を評価した後、改善して次のステップへと繋げていく過程は、日常業務を進めていくうえで、ひいては業務や市民サービスの質を高めるうえで大変役立ちます。

■ PDCAサイクルのイメージ



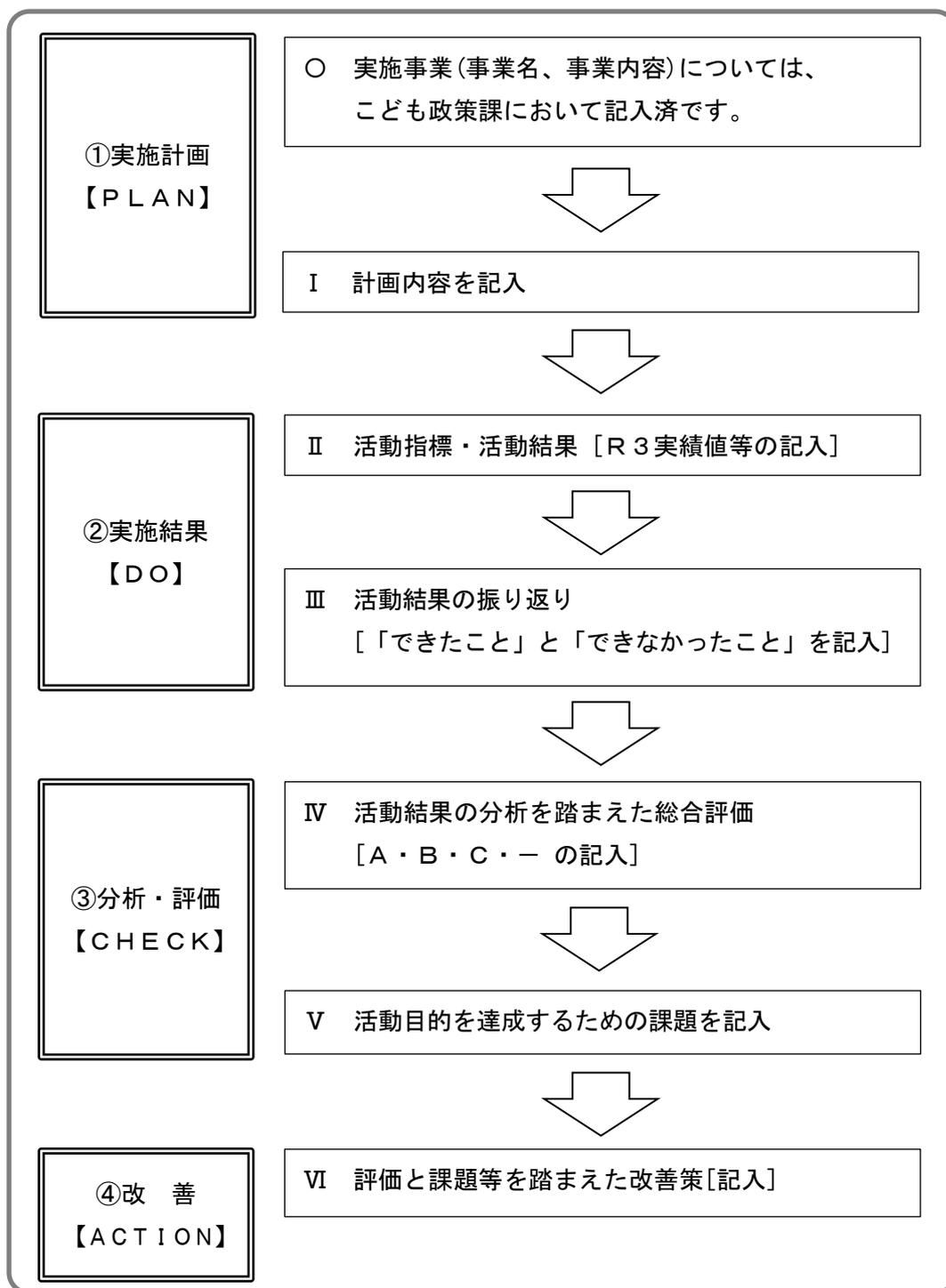
計画（Plan）	目標を設定し、目標達成に向けた活動を立案する
実行（Do）	計画に基づき活動を実行する
評価（Check）	活動を実施した結果を把握・分析し、改善すべき課題等を考察する（学ぶ）
改善（Action）	考察に基づき、計画の目標、活動などを改善に向けて見直す

3 PDCAサイクル実施の流れ

第4期計画に基づく施策（事業）を評価するためのPDCAサイクルに沿った作業手順は、次のページに示すとおりです。

作業は「第4期計画 施策(事業)評価シート」の作成により行います。

■第4期計画 施策(事業)評価シート作成作業の流れ（イメージ）



3ページから、関係課から提出された「第4期計画等施策（事業）評価シート」を取りまとめた結果を示します。

II 第4期計画等施策（事業）評価シート

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1101	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	母子健康手帳の交付、妊婦面接・相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	妊娠届出者への母子健康手帳交付時に、保健師や助産師が面接し、母子保健事業の周知、妊産婦健康診査・妊婦歯科健康診査の勧奨、妊娠初期からの健康管理についての保健指導や、出産の準備などの情報提供を行います。また、相談にも応じ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠届出時の全数妊婦面談実施し、必要な情報の提供と支援が必要な妊婦の把握に努める。 新型コロナウイルス流行禍でも全数妊婦面談実施できるよう体制を整える。 		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
妊婦面談（H23年度中から開始）・子育てプランシート作成（H29年度開始）実績	件	2,547	2,540			策定	全妊婦
						現在	全妊婦
できたこと(達成したこと)	面談時に妊婦の様子や支援者の有無について確認を行い、マタニティブルーの状況や産後支援が必要となる妊婦を把握している。来所困難である妊婦に対しては、代理人と面談の上、後日妊婦へ電話し支援者の有無等について確認している。新型コロナウイルス感染症への不安から来所に抵抗がある妊婦に対し、オンラインでの面談もできるよう体制を整えたが、希望者はいなかった。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス流行禍でも全数妊婦面談実施できるよう体制を整えることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	就労や体調不良等で来所が難しい妊婦にも必要な情報提供や相談対応が行えるよう、面談体制を整備する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	来所が困難な妊婦にも直接必要な情報提供や相談対応が行えるよう、オンライン面談についてホームページに明記するなど、積極的に周知していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1102	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	両親教室（パパ&ママクラス）	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	妊娠中から出産や育児に関する情報提供、相談支援体制の充実を図るため、妊婦やそのパートナー等が参加する講座を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度～令和4年度はオンライン講座で行い、産後のからだところの変化や赤ちゃんとの生活について講義し、育児手技指導を行う。 令和5年度以降は、新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら参加型に戻して行うことを検討する。 		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
① 親教室の実施回数	回	3	6			策定	増やす
						現在	増やす
② 講者人数	人	131	305			策定	増やす
						現在	増やす
③ (パートナー)参加率	%	100	75.3			策定	100
						現在	100
できたこと(達成したこと)	オンラインで実施することにより、新型コロナウイルス感染症流行下でも安定した事業実施ができた。また、産後のこととからだについてや、赤ちゃんとの生活についてを講義内容に取り入れたことで、家族で育児に取り組む動機付が行えた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	沐浴等の育児手技の指導ができなかった。また、オンラインでの参加者交流では会話が続き、十分な交流ができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	事後アンケートでは「とてもよかった」「よかった」の割合が毎回8割を超えていたものの、参加型での交流や育児手技指導を希望される意見が多く見られたため。
B		
活動目的を達成するための課題	オンラインでは活発な意見交換が行われにくく、効果的な交流とならない。また、育児手技指導については、動画配信では細かい疑問などに答えられないため、オンライン上でも行う必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら参加型に戻し、対面型交流ができるようにする。また、オンライン講座では、満足度の低い交流の時間をニーズの高い育児手技指導の時間に充てる。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1103	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	保健相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	家庭環境の問題や育児困難等、相談内容が複雑化・困難化していることを踏まえ、関係機関とのさらなる連携による支援体制の充実を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・地区活動や乳幼児健診会場等において、オンライン相談の周知を図る。 ・関係機関との連携を密に行う。 		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
① 面接指導（延人数）	人	696	742			策定	増やす
						現在	増やす
② 電話指導（延人数）	人	7,252	4,974			策定	増やす
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、面接指導数を増やすことができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	電話指導数が減少した。また、オンライン相談の件数は2件であり、前年の1件に比べて大きく伸びなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	面接指導数は増加したが、電話指導数が減少したため。
B		
活動目的を達成するための課題	関係機関との連携による支援体制の充実、相談体制の周知。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援依頼のあったケースについては、引き続き関係機関と連携しながら適切な支援に努める。オンライン相談の周知を積極的に行い、面接に抵抗のある住民にも気軽に相談してもらえるように取り組む。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ①妊娠・出産に関する相談・情報の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1104	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	訪問指導	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	妊産婦や乳幼児のいる家庭に、保健師・助産師等が訪問し、育児相談やつどいの広場等の情報提供等を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦面談等において、保健師や助産師等の訪問に関する周知を図る。 ・関係機関との連携を密に行う。 		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
訪問指導実施数（延人数）	人	2,347	2,429			策定	増やす
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	訪問指導数が増加した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	訪問指導数が増加したため。
A		
活動目的を達成するための課題	顕在化しているケースのみならず、問題が潜在しているケースにも支援を行き渡らせることが必要。訪問について周知し、相談しやすい環境を整える。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援依頼のあったケースについては、引き続き関係機関と連携しながら適切な支援に努める。問題が潜在しているケースについては、妊娠届出、乳幼児健診など、保健師等が全数面談できる機会にアセスメントし、支援につなぐ。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1105	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	妊婦健康診査	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	妊婦及び胎児の健康保持を図るとともに、妊娠状態を定期的に確認します。 また、医療機関と連携し、保健指導や産後の育児不安の軽減等を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 受診券交付時に妊婦健康診査受診券について説明し、妊婦健康診査の助成や継続的な受診の必要性について説明する。 関係機関との連携を密に行う。 		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
妊婦健康診査費用助成件数	件	28,339	28,564			策定	増やす
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境整備ができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境整備ができているため。
A		
活動目的を達成するための課題	妊婦健康診査を定期的に受診することができるよう、妊婦健康診査の重要性について普及・啓発を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	妊娠届出時から妊婦健康診査の重要性について普及・啓発を行うことや、医療機関(産科等)との連携を図り妊婦の状況に併せた支援を行い、妊婦健康診査が定期的に受診できるよう支援を行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1106	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	妊婦歯科健康診査	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	妊婦に対して、妊娠中の口腔管理を通して、安全・安心な出産をサポートします。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	妊娠届出時に妊婦歯科健康診査受診券について説明し、妊婦歯科健康診査の助成や受診の必要性について説明する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
① 受診者数（延べ人数）	人	894	906			策定	増やす
						現在	増やす
② 受診率	%	37.8	35.6			策定	増やす
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により受診率が低い状況が続いているが、妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産出来る環境整備が出来た。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	妊婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図ることにより、安心して妊娠・出産できる環境が整備できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	歯周病の重症化により、早産や低体重児出産の頻度が高まる可能性があることから、妊婦歯科健康診査の重要性について母子保健事業や産科・歯科医療機関を通じて普及・啓発を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、妊婦歯科健康診査の大切さについて、妊婦へ周知を図っていく。
------------------------------------	------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1107	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	生活習慣病予防	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	妊婦とそのパートナー等に対し、自らの健康状態を理解し、将来の生活習慣病の予防や受動喫煙防止などの情報提供ならびに動機付けを行います。また、受診率の高い乳幼児健康診査の場も活用し、子育て世代に対して健康づくりに関する情報提供を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	—		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
健康づくりセミナー（パパ&ママクラス）の回数、参加者数	回	廃止	廃止			策定	-
						現在	-
	人	廃止	廃止			策定	-
						現在	-
できたこと（達成したこと）	—						
できなかったこと (達成できなかったこと)	—						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	—
—		
活動目的を達成するための課題	—	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	—
------------------------------------	---

※新型コロナウイルス感染予防のため、健康づくりセミナー（パパ&ママクラス）は廃止。

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1108	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	産前・産後ホームヘルパー派遣	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	産前・産後、体調不良のため家事や育児が困難な家庭や、多胎児を出産した家庭等にホームヘルパーを派遣します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスを必要とする家庭等にホームヘルパーを派遣し、産前・産後の育児負担の軽減を図ります。 ・申請件数の増に備え、新規事業者の拡充に努めます。 		○				★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
委託事業所数	か所	23	27			策定	30
						現在	27
利用世帯実数	世帯	49	84			策定	90
						現在	84
できたこと(達成したこと)	増加する利用申請件数に対応し、利用の希望に応じて派遣を行い、育児負担の軽減を図ることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍により親族等からの支援が受けにくい現状もあり、利用申請件数が増加し、それら個々の希望に沿った支援ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	今後も利用希望の増加が見込まれるため、ニーズに寄り添った支援が行えるよう、受入体制（委託先）の拡充を図る必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新たな委託先事業者の確保に努める。
------------------------------------	-------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1109	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	入院出産の助成	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	誰もが子どもを安心して産めるように、経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、入院助産に要する費用を一部助成します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、関係機関と連携し、適切にサービス提供する。		○				★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
助成対象者数	人	4	7			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	関係機関と連携し、助成が必要となる妊産婦に対して適切にサービス提供ができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	経済的な理由により不安を抱える妊産婦に対し、安心して入院助産を受けていただくことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、経済的な理由により入院助産できない妊産婦に対し、関係機関と連携し、適切にサービスを提供する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊産婦の健康保持・増進・支援の充実 ②妊娠・出産期における健康の保持・増進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1110	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	産婦健康診査	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年・ 若者期
	事業内容	出産後間もない時期にある産婦の心身の健康保持・増進を図るため、おおむね産後2週間、産後1か月に受診する産婦健康診査にかかる費用を助成します。 また、医療機関と連携し、育児不安の軽減等を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 受診券交付時に産婦健康診査受診券について説明し、産婦健康診査の助成や受診の必要性について説明する。 関係機関との連携を密に行う。 		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
産婦健診受診者数	人	3,560	3,649			策定	増やす
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	産婦健康診査の結果から産後早期から医療機関と連携を図ることができ、また産婦への早期支援に繋げることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	産婦健康診査結果より支援が必要な産婦について医療機関より連絡を受け、早期に支援することができているため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、医療機関と連携を図り、支援が必要な産婦の早期支援に努める。
------------------------------------	------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇妊娠・出産期からの切れ目のない支援（いばらき版ネウボラ）

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1111	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て世代包括支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	母子保健事業と子育て支援事業の一体的な提供により、子育て支援に関するワンストップサービスの提供体制の充実を図り、関係機関と連携し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠届出時の全数妊婦面談実施し、必要な情報の提供と支援が必要な妊婦の把握に努める。 ・新型コロナウイルス流行禍でも全数妊婦面談実施できるよう体制を整える。 ・多胎妊産婦に対し、妊娠中から産後にかけての継続支援を行う。 		○	○			★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
妊婦面談・子育てプランシート作成 (H29年度開始) 実績	件	2,547	2,540			策定	全妊婦
						現在	全妊婦
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症への不安から来所に抵抗がある妊婦に対し、オンラインでの面談も実施できるよう体制を整えた。 育児負担が大きい多胎妊産婦に対して、利用者支援事業（基本型）とともに母子保健と子育て支援の両分野から妊娠中から産後にかけて、ニーズに応じた継続支援を実施することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス流行禍でも全数妊婦面談実施できるよう体制を整えることができ、また、多胎妊産婦に対して妊娠中から産後にかけて継続的な支援が実施できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	就労や体調不良等で来所が難しい妊婦にも必要な情報提供や相談対応が行えるよう、面談体制を整備し、周知していく。 多胎妊婦のニーズを把握し、健やかな育児ができるよう、各関係機関との連携において、引き続き支援を充実させる必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	来所が困難な妊婦に対する面談体制の整備とともに、周知方法を検討する。また、多胎妊婦支援に関しては、関わりの中でニーズを把握し、子育て支援総合センターの利用者支援事業（基本型）とともに、情報提供・サービスの利用をスムーズに行えるよう今後も検討が必要である。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1201	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	乳幼児健康診査	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	乳幼児期において各種健康診査を実施し、疾病や発達上の課題を早期に発見し、医療及び療育へつなげ、保護者の育児不安の解消や虐待を未然に防ぐための支援に努めます。また、未受診児の状況を把握し、必要な支援に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動 計画を簡条書 きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの健康の保持・増進のために健康診査が必要であることを保護者に理解してもらう働きかけや、受診しやすい日程調整を心掛ける。 健診の実施方法を見直し、1歳8か月児健康診査と3歳6か月児健康診査において、対象者の月齢の遅れを取り戻す。 		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
4か月児健康診査受診率	%	84.0	96.5			策定	98.0
						現在	98.0
1歳8か月児健康診査受診率	%	93.2	97.1			策定	97.0
						現在	97.0
3歳6か月児健康診査受診率	%	91.5	93.8			策定	97.0
						現在	97.0
できたこと(達成したこと)	未受診者へのフォローを行うことで、いずれの健診においても受診率が向上した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症拡大により乳幼児健診を一時中止していた時期があるため、1歳8か月児健康診査と3歳6か月児健康診査の対象者の月齢が通常より遅れている。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	1歳8か月児健康診査と3歳6か月児健康診査の対象者の月齢が通常より遅れているため。
B		
活動目的を達成するための課題	1歳8か月児健康診査と3歳6か月児健康診査において、対象者の月齢の遅れを取り戻す必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	受診率向上のため、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、受診しやすい環境を整える。また、健診の実施方法を見直し、1歳8か月児健康診査と3歳6か月児健康診査において、対象者の月齢の遅れを取り戻す。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1202	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	歯科疾患予防	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	歯科疾患予防を図るため、幼児に対する口腔内検査、予防処置、保健指導、カリエスタット等を実施します。また、乳幼児期の発育・発達に応じた口腔保健に関する知識の普及に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳8か月児、3歳6か月児健康診査及び2歳3か月児歯科健康診査や地区活動の場において、乳幼児期の発達発育に応じて、むし歯予防や歯磨き習慣、噛むことの大切さなど、口腔機能に関する知識の普及に努める。 ・対象者の遅れの解消を図る。 		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
2歳3か月児歯科健康診査受診率	%	74.1	71.6			策定	増やす
						現在	増やす
2歳5か月児歯科健康診査受診率	%	75.9	67.4			策定	増やす
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	乳幼児期の発育発達に応じたむし歯予防や歯磨き習慣、噛むことの大切さなど、口腔機能に関する知識の普及に努めることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2歳3か月児歯科健康診査の受診率は低い状況が続いている。また、乳幼児健康診査と比べると、例年受診率は低い状況である。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症拡大により乳幼児健診を一時中止していた時期があったことから、対象者の月齢が通常より遅れているため。
C		
活動目的を達成するための課題	対象者の月齢の遅れを取り戻す必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度は2歳5か月児歯科健康診査を医療機関に委託し、2歳3か月児歯科健康診査の実施回数を増加する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課					
実 施 事 業	事業No.	1203	ライフステージ			
	事業名	二次健康診査（経過観察健診）	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期
	事業内容	一次健康診査等で発見された問題について、適切な事後指導を行うため、経過観察や相談等を実施します。 また、関係機関と連携を図りながら、医療機関や療育機関等を紹介する等、フォローアップに努めます。				
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの食生活・生活習慣に関する正しい知識の普及・啓発を図る。 ・子どもの健やかな成長を支援するため、子どもの健康保持・増進への取組や健康に関する相談・情報提供に柔軟に対応できる体制の充実を図る。 		○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
受診人数（小児）	延べ人数	108	149			策定	質的充実
						現在	質的充実
受診人数（心理相談）	延べ人数	178	192			策定	質的充実
						現在	質的充実
できたこと(達成したこと)	発達・発育及び疾病の二次スクリーニングとして、治療や療育等の必要性を、早期に示すことができています。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	関係機関と連携を図りながら継続支援体制の充実を図る必要があるため。
C		
活動目的を達成するための課題	母子保健・医療・福祉の連携と、発達支援に関する支援継続体制の充実が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	関係機関と連携を図りながら、継続支援体制の充実を図る。
------------------------------------	-----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1204	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	予防接種	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	感染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するため、予防接種を実施します。（長期療養を含む）					
計 画 内 容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、前年度同様接種率の減が見られるが、接種率の向上を目指すため、多様な媒体を通じた情報提供方法を検討する。 新たな情報提供方法について、積極的に検証し、運用へつなげる。 		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
接種率(MR第2期)	%	96.2	93.8			策定	95.0
						現在	100.0
できたこと(達成したこと)	対象者へ個別の通知による接種勧奨を実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	接種率を100%に近づけること。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	95%以上の接種率を維持できなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	接種率の更なる向上のため、接種対象者への充実した情報提供や接種勧奨の実施及びワクチン流通量の把握・対応を行うこと。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	疾病の理解やワクチン接種の必要性を幅広く周知するため、適切な情報提供の方法や媒体を検討し、運用することで接種率の向上を目指す。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	医療政策課						
実 施 事 業	事業No.	1205	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	小児救急医療体制の確保	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	小児初期救急の広域化に伴い、3市1町（本市、高槻市、摂津市、島本町）で高槻島本夜間休日応急診療所の小児科を共同運営します。					
計 画 内 容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	引き続き、3市1町（茨木市、高槻市、摂津市、島本町）で小児初期救急の広域運営を実施し、小児救急医療体制の安定的な確保に努める。また、指定管理者である（公財）大阪府三島救急医療センターに対して、課題改善に向けた働きかけを行っていく。		○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
小児初期救急医療機関設置の有無	-	有	有			策定	有
						現在	有
できたこと(達成したこと)	平成25年4月に高槻・島本夜間休日応急診療所で小児救急の広域化を開始し、小児科専門医や検査機器等の集約化により安定した運営体制を確保している。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	患者数の増減が活動によるものかどうかは判断が付け難く、評価には該当しないため。
-		
活動目的を達成するための課題	安定した小児科専門医及び小児科対応医師の確保や、検査体制を確保・維持していくこと。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、3市1町（茨木市、高槻市、摂津市、島本町）で小児初期救急の広域運営を実施し、小児救急医療体制の安定的な確保に努める。また、指定管理者である（公財）大阪府三島救急医療センターに対して、課題改善に向けた働きかけを行っていく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ①子どもの疾病予防・発達上の課題の早期発見・早期対応

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1206	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	保育所・幼稚園における子どもの健康管理	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	子どもの健康管理については、法令に基づき保護者との連携を図りつつ、内科、歯科、耳鼻咽喉科等の健診を行い、健康及び発達状況を把握し、子どもの健やかな成長を促します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・内科検診 ・歯科検診 ・眼科検診 ・耳鼻科検診 			○			

■実施【Do】

<評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）>

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施園所数	箇所	20	20			策定	全施設
						現在	全施設
できたこと(達成したこと)	所属する子どもの健康面の維持増進や、治療等が必要なケースへの早期発見につなげることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	全施設で検診を実施できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後についても根拠法令に基づいて実施していく。
------------------------------------	-------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ②食育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1207	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	栄養相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	乳幼児期の食事と栄養等について正しい知識の普及を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策として乳幼児健康診査に要する時間を短縮する中での個別相談の実施。 保健医療センターで実施している栄養相談の紹介を行う等、支援方法の案内。 		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
1歳8か月児健康診査	人	137	172			策定	287
						現在	増やす
3歳6か月児健康診査	人	55	99			策定	106
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	問診や保健相談時に栄養相談の希望の有無を保護者へ確認し、希望者は相談できるように調整した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症拡大により乳幼児健診を一時中止していた時期があるため、対象者の月齢が通常より遅れている。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	対象者の月齢が通常より遅れているため。
C		
活動目的を達成するための課題	各健診の延期の影響で、対象年齢を超えての受診案内となっているため、保護者の育児不安の解消になっていない可能性がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き新型コロナウイルス感染対策を講じながら、相談しやすい環境を整える。
------------------------------------	---------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ②食育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	健康づくり課						
実 施 事 業	事業No.	1208	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	離乳食・幼児食講習会	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若 者期	
	事業内容	乳幼児をもつ保護者に対し、離乳期や幼児期における食事の進め方、調理方法、味付け等の講習を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動 計画を簡条書 きで記述)	離乳食講習会 ごっくんクラス 離乳食講習会 かみかみクラス 幼児食講習会 ぱくぱくクラス 令和5年度10月からの実施会場移行に伴い、各講習会の受け入れ人数を現在の倍に増やす。			○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ごっくんクラス参加者数	人	152	142			策定	300
						現在	300
かみかみクラス参加者数	人	69	74			策定	360
						現在	150
ぱくぱくクラス参加者数	人	41	46			策定	300
						現在	100
できたこと(達成したこと)	感染症対策のため、個別相談形式を含め、できるだけ中止を防いだ。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	感染症対策のため、試食や調理実習が実施できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	試食や調理実習が実施できておらず効果測定が困難なため。
-		
活動目的を達成するための課題	感染症対策に留意しながらの取組が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	オンラインでの講習会、地域に出向いての講習会により、参加者の負担軽減に努める。感染症予防の緩和、新施設への移行に伴って参加者の募集人数を増やして実施する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子どもの健康保持・増進 ②食育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1209	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	幼稚園・保育所における食育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	食育教材による食指導や、家庭への啓発文、取組の紹介により家庭での食生活に参考となる情報提供を行うなどの取組により、子どもや保護者の食に対する姿勢等から興味や関心を育てます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・菜園活動 ・食育教材による食指導 ・家庭への啓発文送付 ・クッキング活動 			○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施園所数	箇所	13	20			策定	全施設
						現在	全施設
できたこと(達成したこと)	食育教材による食指導、家庭への啓発文、取組の紹介により家庭での食生活に参考となる情報提供を行った。その結果、子どもや保護者の食に対する興味や関心を育てることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により菜園で収穫した食材のクッキング活動が少なくなった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	活動は全施設で実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により菜園で収穫した食材のクッキング活動が少なくなったため。
B		
活動目的を達成するための課題	クッキング活動で養われる食への興味、関心について、違う方法による取組を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、順次、クッキング活動を再開していく。また、クッキング活動が出来ない場合においても、先生が調理を行っているところを子どもに見てもらおう等、創意工夫を図りながら食に対する興味や関心を育てていく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1210	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	「個」を大切に作る幼稚園教育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	「茨木市人権教育推進プラン」に基づき、一人一人の人格が尊重される集団づくりを通して幼児の成長発達に即した教育を推進します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	研修を実施し、職員の知識・技能の向上を図る。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
夏季人権研修受講回数	回	1	1			策定	1
						現在	1
冬季人権研修受講回数	回	1	1			策定	1
						現在	1
できたこと(達成したこと)	研修を通して教職員の知識の習得・技能の向上につながり、子ども一人ひとりの人権を大切に教育の推進に寄与することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	教職員の知識の習得、自己啓発に努め、子ども一人ひとりの人権を大切に教育を行うことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	大阪府が作成した人権基礎教育指導事例集を園内研修等で十分に活用できなかった。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、教職員の知識の習得、自己啓発に努め、子ども一人ひとりの人権を大切に教育を推進していく。また、その際には人権基礎教育指導事例集を活用していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1211	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	「個」を大切にする保育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	「茨木市人権保育カリキュラム」に基づき、子どもの豊かな感性と創造力を養うことができる環境に配慮するとともに、子どもの発育について「個」を尊重した保育を展開します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	研修を実施し、職員の知識・技能の向上を図る。			○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
人権保育研修実施回数	回	3	1			策定	3
						現在	3
できたこと(達成したこと)	研修内容について検討し実施できた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施できなかった研修があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	職員の知識の取得や自己啓発に努め、個を大切にした保育を実践できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	研修内容が同じ分野の内容に偏らないよう、研修内容を精査していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	研修の内容を検討し、職員の質の向上につなげていく。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園総務課						
実 施 事 業	事業No.	1212	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	公立保育所の機能と役割の強化	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	公立保育所の機能と役割を強化し、地域の子育て家庭支援の充実や、圏域5ブロックでの拠点として、教育・保育施設等の交流や連携を図ります。 また、小規模保育事業所等との連携確保に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放の実施 ・利用者支援事業（相談）の実施 ・拠点事業（小規模保育事業所等との連携）の実施 						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ともだちひろば（園庭開放）	件	117	114			策定	200
						現在	200
利用者支援事業 相談件数	件	500	179			策定	500
						現在	500
できたこと(達成したこと)	園庭開放により、子どもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	利用者支援事業について、緊急事態宣言等の期間中は相談を実施していなかったため、相談件数が減少した。また、拠点事業が新型コロナウイルス感染拡大のため、実施できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	園庭開放により、子どもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	リモートで相談できるように準備を進めたが、利用にはつながらなかった。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	園庭開放時に相談が多いことから、コロナ禍においても可能な限り実施できるように工夫する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1213	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	認定こども園の普及	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	保育所・幼稚園の特長をあわせ持つ認定こども園の普及に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	認定こども園への移行にあたっての事業者の課題を踏まえ、事業者と調整しながら、環境整備などの課題解決に向けた支援を行う。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
認定こども園化数	園	1	1			策定	8
						現在	8
できたこと(達成したこと)	保育所から認定こども園へ移行することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	幼稚園からの移行実績が少ない。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	保育所から認定こども園への移行に加え、一部幼稚園からの移行も進みつつあるが、まだまだ実績が少ないため。
B		
活動目的を達成するための課題	事業者の意向によるところが大きい。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	事業者が抱える課題を共有し、課題解決に向けて相談・支援を行う。
------------------------------------	---------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課、学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1214	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	小・中学校への円滑な移行のための保・幼・小・中の連携	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	幼児期の教育・保育と小学校以降の教育との円滑な移行、並びに子どものライフステージの各段階で生じる壁の解消を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校間のスムーズな接続に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ブロックごとに合同授業研修や連携の担当者会を開催し、保幼小中連携を継続的に進める。 ・学びのシンポジウムを開催し、保幼小中の取組を共有する。 						

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標(保育幼稚園総務課)	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
保幼小中連携会議の実施回数	回	2	3			策定	3
						現在	3
できたこと(達成したこと)	保幼小中で取組を共有することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症により、中学校ブロック交流会議等の実施が難しかった。						
活動指標(学校教育推進課)	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
保幼小中連携会議の実施回数	回	0	3			策定	2
						現在	3
英語であそぼうデイ実施回数	回	34	48			策定	51
						現在	51
できたこと(達成したこと)	保幼小中連携会議はオンライン等を活用しながら、年3回実施し、各中学校区での取組みや課題を共有することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	各中学校で合同研修会等の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあって、実施できた校区と実施できなかった校区があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	定期的な会議を設定して交流することにより、保幼小中の連携が深まり、接続期における子ども理解や対応をスムーズに進めることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	保幼小中連携を担当者だけでなく、全教職員が関わりをもてるようにする点では、課題が残る。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	保幼小中連携の取組について、各ブロック交流会議で教職員の交流を深め、今年度の保育所・幼稚園・小学校・中学校の接続に努める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1215	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	保育の提供体制の充実	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	既存施設の利活用等により待機児童の解消に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	待機児童ゼロを維持していくために、第4期次世代育成支援行動計画に沿って整備を進めていく。なお、保育需要の状況を見て、必要に応じて計画を見直す。		○				

■実施【Do】

<評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）>

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
待機児童数	人	0	0			策定	0
						現在	0
できたこと(達成したこと)	老朽化した既存施設の建替えにあわせた定員増により待機児童ゼロを継続した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	待機児童ゼロを継続できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	就学前児童が減少していることを踏まえ、保育需要を見極めて整備していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、待機児童ゼロを継続するための必要な方策を実施していく。
------------------------------------	----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1216	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	公立幼稚園のあり方の検討	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	就園者数や運営経費、公立としての役割を考慮して適切なあり方を検討します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	検討結果を踏まえた計画に沿って事業を実施する。					○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
審議会実施回数	回	6	0			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	公立幼稚園の再編整備にあたっての必要な条例等の改正や、保護者への周知、説明を行った。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	審議会での検討を踏まえた計画に沿って事業を進めることができているため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、計画に沿って事業を進めていく。
------------------------------------	----------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課						
実施事業	事業No.	1217	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	幼稚園の預かり保育（一時預かり）	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	保護者の希望によって、通常の教育時間を超えて行う預かり保育（一時預かり）を実施します。					
計画内容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	預かり保育のニーズは依然として高いことから、継続して事業を実施する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施か所数、延べ利用人数	か所	34	35			策定	34
						現在	35
	延人	61,820	67,768			策定	75,000
						現在	75,000
できたこと(達成したこと)	保護者のニーズに合わせて預かり保育の案内をできた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	保護者のニーズに概ね対応できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	入園希望者に預かり保育の制度をわかりやすく案内する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入園手続き時や相談時に預かり保育の制度を案内する。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課						
実施事業	事業No.	1218	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	延長保育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	通常の保育時間を超えて保育を実施する延長保育を実施します。 保護者の就労形態の多様化に合わせて事業の充実に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	今後も延長保育のニーズを把握し、延長保育の充実について検討する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施か所数	か所	76	77			策定	72
						現在	77
できたこと(達成したこと)	保護者の就労形態が多様化している中で、概ね保育ニーズに対応できた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	保護者のニーズに概ね対応できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も延長保育のニーズを把握し、延長保育の充実について検討する。
------------------------------------	----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課					
実施事業	事業No.	1219	ライフステージ			
	事業名	休日保育	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期
	事業内容	保護者の就労形態の多様化や利用者の利便性を勘案し、日曜や祝日に保育を行う休日保育を実施する保育所の拡充に努めます。				
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	休日保育のニーズを把握し、事業実施施設の増加を検討する。			○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施か所数、延べ利用人数	か所	1	1			策定	2
		現在	2				
	延人	372	351			策定	540
		現在	540				
できたこと(達成したこと)	保護者の就労形態が多様化している中で、連休中の預かり等、概ね保育ニーズに対応できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	事業実施施設の増加はできなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	休日保育のニーズには概ね対応できたが、事業実施施設の増加はできなかったため。
C		
活動目的を達成するための課題	休日保育の予約や利用方法、空き枠が出ない運営方法を再検討する。また、北ブロックにしか施設がないため、事業実施施設の増加を検討する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	企業主導型保育事業所を休日に利用した場合に利用料の一部を補助する「休日保育事業利用料補助事業」の周知を継続的に行い、企業主導型保育事業所における休日保育の利用者数増加を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就学前教育・保育体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課							
実施事業	事業No.	1220	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス	貧困計画
	事業名	保育所・幼稚園職員の研修	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期		
	事業内容	保育所・幼稚園において、社会ニーズや実態に即した研修を企画及び実施し、職員の知識・技能の向上を図ります。						
計画内容 (具体的な活動 計画を箇条書 きで記述)	研修を実施し、職員の知識・技能の向上を図る。			○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
障害児保育研修	回	4	2			策定	4
						現在	4
栄養士・看護師研修	回	3	3			策定	4
						現在	4
保幼連携研修	回	4	2			策定	4
						現在	4
できたこと(達成したこと)	栄養士・看護師研修の実施が達成できた。 障害児研修は集合研修として実施できなかったため、所内でアドバイザー、所長を中心に研修することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	障害児保育研修、幼保連携研修の目標回数が集合研修としてコロナ感染症予防の観点から実施できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	専門的な知識を習得するとともに保育所と幼稚園職員の交流を図ることで、子どもの非認知能力の向上など課題を共有することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できない研修があった。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	保育所と幼稚園職員の交流を図ることができるようオンライン等を活用し、今年度の研修会を実施していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ①相談支援・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1221	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育てに関する相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	子育てや発達などについて、電話・面接による相談を実施します。 相談内容に応じ、子育ての負担感の軽減を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子育てに関する相談について、電話・面接・メール・オンラインなど多様な手法による相談を実施します。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
電話・メール相談件数	件	515	429			策定	質的充実
						現在	質的充実
面接相談件数	件	18	135			策定	質的充実
						現在	質的充実
できたこと(達成したこと)	広報誌やホームページ、SNSなど多様な媒体を通して相談についての周知を行い、保護者の不安や負担感などを気軽に相談できるよう努めた。 前年度に比べ、面接での相談を多く行うことができ、相談件数の増につながった。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	オンラインを活用した相談について、ニーズが少なかったこともあり、活用が充分でなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	令和2年度に比べて、面接相談が増加し、相談総件数も増加しており、コロナ禍でありながらも心配事・困り事のある相談者とつながることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	今後は、長引くコロナ禍の影響に対応して、オンラインやSNSを活用した相談など、多様な媒体による相談を研究していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	面接や電話、メール、オンラインなど、多様なニーズに寄り添った、気軽に相談できる環境整備について、研究を行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ①相談支援・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課、保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	1222	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育てに関する情報発信及び利用者支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	保育サービス、公共施設での授乳室などの設備状況や子育て支援に関する情報を掲載した冊子「子育てハンドブック」を作成・配布します。 また、ホームページ等でも積極的に情報を発信するとともに、スマートフォンアプリの作成・運用を検討します。 また、子ども及びその保護者又は妊婦がその選択に基づき多様な教育・保育施設、地域子ども・子育て支援事業等を円滑に利用できるよう、利用者支援事業の充実を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 利用者支援事業（相談）の実施 子育てハンドブックについて、内容を最新の情報に更新し発行・配布する。 つどいの広場等、さまざまな場所に出向くなどし、利用者支援事業を実施する。 		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子育てハンドブック発行数	部	15,200	15,200			策定	15,200
						現在	15,200
関係機関連携会議回数	回	18	11			策定	20
						現在	11
できたこと(達成したこと)	予定通りハンドブックを発行・配布するとともに、HP等さまざまな媒体を通して情報発信を行った。また、利用者支援については、ニーズに対応できるよう、アウトリーチも含めた相談を実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	SNSを通じた情報提供について、発信が少なかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	ハンドブックやホームページなど様々な媒体を通じて情報発信を行うことができた一方で、SNSを通じた情報発信は十分にできなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	SNSを活用した情報発信について、研究・検討を行う必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	SNSを活用した情報発信について、研究・検討を行う。
------------------------------------	----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ①相談支援・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1223	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子育て支援総合センター各種講座	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	就学前児童の保護者を対象に、乳幼児の生活リズム・家庭での事故防止等、市民ニーズを踏まえた講座を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・時々の時世に合った、保護者の方に知っていただきたい内容の講座を開催します。 ・オンラインや対面など、内容に見合った手法で開催します。 						

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子育て講座等実施回数及び参加者数	回	21	27			策定	25
		現在					27
	人	194	267			策定	500
		現在					267
できたこと(達成したこと)	コロナ感染状況に対応し、オンラインと対面でのそれぞれの良さを活かして、開催することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ感染状況により、中止や延期をした講座等があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	長引くコロナ禍の影響に対応して、対面・オンラインのそれぞれの良さを活かして、さまざまな手法で開催することができ、今まで参加することができなかった方も参加していただくことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	さらに多くの方のニーズに合わせた講座が開催できるよう、オンライン化を進める必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子育てに必要な、知っていただきたい内容について、対面・オンラインのそれぞれの良さを活かして、引き続き開催していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課							
実施事業	事業No.	1224	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	乳児家庭全戸訪問（こにちは赤ちゃん事業）及び4～12か月児親子交流（赤ちゃんと保護者の交流会「あかちゃんあそぼ」）	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	事業内容	子育て世代包括支援センターとして母子保健と連携し、生後4か月までの乳児のいる家庭をより効率的に訪問し、親子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報等の提供を行います。 また、おおむね4～12か月の子どもと保護者の交流の場である「あかちゃんあそぼ」を、各地域の対象者数等を踏まえて実施します。						
計画内容 （具体的な活動計画を箇条書きで記述）	<ul style="list-style-type: none"> 親子の心身の状況や養育環境を把握するとともに、育児に関する助言及び子育て支援に関する情報の提供を行うため、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問します。 各地域での交流機会の少ない地域を中心に、交流の場を提供します。 						○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6（目標）	
乳児把握率	%	100	100			策定	100
						現在	100
交流会参加者数	人	452	463			策定	1,000
						現在	463
できたこと（達成したこと）	乳幼児家庭全戸訪問において、家庭と乳児の状況について、全数把握することができた。また、こども健康センターと情報共有を図り、予約訪問を行うなど、効率的な訪問を行うことができた。						
できなかったこと（達成できなかったこと）	新型コロナウイルス感染症の感染状況により、交流の場である「あかちゃんあそぼ」を中止するなど、予定とは異なる部分が発生した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	交流の機会の提供についてはコロナ禍で予定通り実施できないこともあったが、全戸訪問において全数把握することができ事業の目的は達成できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	オンラインを活用した訪問や交流機会の創出を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	オンラインを活用した訪問や交流機会の創出を検討する必要がある。
------------------------------------	---------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1225	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	養育支援家庭訪問	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	養育上支援が必要な家庭に対し、支援担当員に加え、保育士や心理判定員等の専門職が家庭を訪問し、保護者の自立に向けた支援を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和4年度は事業の安定運営を図るため、 ・支援担当員の新規募集 ・新規採用者への研修等を計画的に実施 ・引き続き、養育支援が必要な家庭に相談や子育て支援サービス等の提供を行う。			○	○	○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
世帯数	世帯	9	10			策定	18
						現在	10
できたこと(達成したこと)	子育て相談等の関りの中から、養育に不安を抱える家庭を本事業に繋げることができたため、利用世帯数が増加した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	育児に負担感を感じていながらも家庭訪問の受け入れが悪くなり途中で事業を止めてしまい、十分な支援が行えなかった家庭があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	育児負担感や不安感の軽減のため、育児相談やサービスの提供等を概ね適切に実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	利用世帯の育児負担感を軽減するには支援担当員のスキル向上が必須であるため、研修を実施する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援担当員の新規募集及び研修等を計画的に実施し、事業の安定運営を図る。
------------------------------------	-------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1226	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	地域子育て支援拠点の整備・運営支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	就学前の子どもとその保護者が気軽に集い、自由に遊べる場を提供します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和7年度までに、地域子育て支援拠点が無い小学校区に6か所設置(令和5年度から令和7年度に年2か所ずつ設置予定)。現在25か所設置済。		○	○			★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
利用者数	人	53,014	50,590			策定	133,926
						現在	58,778
できたこと(達成したこと)	昨年度と同様にコロナ禍で事業としては縮小したが、ICTを活用した活動を実施することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や縮小から利用者数は減少した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍で対面での活動が制限されるなか、徐々にではあるが、ICTを活用した活動を実施することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	コロナ禍の影響もあり、新しい生活様式を取り入れることで、多様な市民ニーズへの対応が困難である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新しい生活様式と共にICTの活用及び感染症対策を徹底し、対面での活動を取り入れながら、コロナ禍での柔軟な活動を提供していく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1227	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て短期支援 (ショートステイ・トワイライトステイ)	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	保護者の病気や出産、育児疲れなどで子どもの養育が一時的にできない場合や保護者の仕事などが夜間にわたる家庭などに対し児童養護施設と連携し、預かり等の対応をします。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	子どもの養育が一時的にできない場合に、子どもの一時預かりを行います。			○	○	○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
延利用日数（ショートステイ）	日	29	34			策定	122
						現在	122
延利用日数（トワイライトステイ）	日	1	0			策定	76
						現在	76
できたこと(達成したこと)	個々の状況に応じ、子どもの一時預かり（ショートステイ）を実施し、保護者の負担の軽減を図ることができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響で、受け入れ制限を行わざるをえない施設もあり、受入先の選択肢が減少している。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	個々の状況に応じ、子どもの一時預かり（ショートステイ）を実施し、保護者の負担の軽減を図ることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症の感染状況により、受入体制が変化することもあり、ニーズにあった支援を継続できる環境の整備に努める必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、施設の受入状況に関する情報連携を密にし、個々のニーズに寄り添った支援に努める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1228	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ファミリー・サポート・センター	妊 娠 出 産 期	就 学 前 期	小 中 学 校 期	青 年 ・ 若 者 期	
	事業内容	地域で育児の手助けをしてほしい依頼会員と手助けをする援助会員の相互援助活動による子育てを支援します。 また、経済的に不安を抱えるひとり親世帯に対し助成を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	依頼会員と援助会員での相互援助活動を行い、子育てを支援します。			○	○		★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
活動件数	件	2,516	3,096			策定	3,998
						現在	3,000
できたこと(達成したこと)	コロナ禍であっても支援を必要とする会員に対し、相互援助活動を行うことができ、前年度に比べて、活動件数が増加した。また、新型コロナウイルス感染症に伴う小学校の臨時休業等による利用補助制度を継続した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	活動数は増加しているが、会員数が増加しない。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	前年度に比べ活動が増加し、支援を必要とする会員の方への支援を行ったため。
A		
活動目的を達成するための課題	相互援助活動を円滑に行うため、会員の増加を図る必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	会員の増を図るとともに、活動していない会員が活動につながってもらえるよう、依頼内容の精査と工夫を行い、活動の活性化を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	1229	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	出前型一時保育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	子育て世代が、講演会や審議会等へ参加できるように託児担当員を派遣して一時的に子どもを預かります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子育て世代がさまざまな活動に参加できるよう、会議等会場に託児担当員を派遣し、一時的に子どもを預かります。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
派遣件数	件	953	736			策定	質的充実
						現在	質的充実
派遣人員	人	1,019	1,048			策定	質的充実
						現在	質的充実
できたこと(達成したこと)	派遣依頼に対して、すべて対応することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響で、依頼はあるものの会議等の中止により託児もなくなるということが多くあった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	派遣を予定していた会議等の中止により託児もなくなることも多く、状況に応じて不安定な状況であったが、派遣依頼に対し、すべて対応することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も依頼に対応できるよう、体制を整えていく。
------------------------------------	-------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課、保育幼稚園事業課						
実 施 事 業	事業No.	1230	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	一時預かり（一時保育）	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	保護者の外出や病気のため、家庭で子どもの保育ができない場合など、一時的に子どもを預かります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	(保育幼稚園事業課) 空き状況の確認や予約システムなどを備えたアプリの導入を検討する。また市民ニーズにより的確に対応するため、民間事業者等への委託も視野に今後検討する。 (子育て支援課) 保護者の外出や病気、レスパイトなど、家庭での子どもの保育が困難な場合に、一時的に子どもを預かります。		○			★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
利用者の見込み数 (保育幼稚園事業課)	人	1,302	1,208			策定	3,065
						現在	3,065
利用者の見込み数 (子育て支援課)	人	5,730	6,051			策定	13,197
						現在	6,051
できたこと(達成したこと)	(保育幼稚園事業課) 保育園や幼稚園等に在籍していない児童について、家庭での保育が難しい場合における預かりの場としての役割を果たすことができた。 (子育て支援課) 子育て支援総合センターでは、アプリによるオンライン予約を昨年度に導入し、利用者の利便性の向上を図るとともに、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しつつ、保育を必要とする方にサービスの提供を行った。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	(保育幼稚園事業課) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染のリスク回避ため、在園児以外の受入が満足できなかった。 (子育て支援課) 新型コロナウイルス感染症対策のため、感染状況によっては、定員の縮小や利用中止もみられた。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	(保育幼稚園事業課) 保護者のニーズに概ね対応できたため。 (子育て支援課) 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しつつ、一時保育を実施することができ、昨年度に比べて、実施件数も増加したが、感染状況によっては、定員の縮小や利用の中止など、ニーズに応えられない状況もみられたため。
B		
活動目的を達成するための課題	(保育幼稚園事業課) 感染症対策のため、施設利用者以外の受入人数を絞るケースや、感染拡大防止のために利用者以外の受け入れを施設側または利用者が拒む等をどう解決していくかが課題となる。 (子育て支援課) 新型コロナウイルス感染対策をしつつ市民ニーズに対応すること。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	(保育幼稚園事業課) 市民ニーズにより的確に対応するため、民間事業所への委託や制度の周知等を行っていく。 (子育て支援課) 感染状況を見極めつつ、市民ニーズに対応できるよう、状況に応じて検討する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ②地域子ども・子育て支援事業の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	保育幼稚園事業課						
実 施 事 業	事業No.	1231	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	病児・病後児保育	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	病院・保育所等において病気の児童を一時的に保育するほか、保育中に体調不良となった児童への緊急対応等を行います。 訪問型病児・病後児保育事業補助の周知を継続的に行い、利用率の向上を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	訪問型病児保育について、令和4年度から非課税世帯の補助額を拡充し、低所得者の利用促進を図る。			○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
病児対応型 延べ利用人数	人	5	10			策定	600
						現在	600
病後児対応型 延べ利用人数	人	90	30			策定	125
						現在	125
体調不良児対応型 施設数	施設	34	35			策定	42
						現在	42
訪問型事業補助 延べ利用人数	人	22	65			策定	40
						現在	100
できたこと(達成したこと)	訪問型病児保育について、周知が進んだこと、また、前年度以前に利用された方が再び制度を利用したことから利用人数が増加した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	訪問型病児保育について、低所得者の利用が利用が見受けられない。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	訪問型病児保育について、制度の周知が進んだため、利用人数が増加したから。
A		
活動目的を達成するための課題	高熱での利用をする場合、新型コロナウイルスの疑いから受け入れが難しいことについて、どう解決していくかが課題となる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	訪問型病児保育については継続的に周知を行い、低所得者も含めて利用率の向上を図ります。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ③経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1232	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	児童手当	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	家庭生活の安定に寄与するとともに児童の健やかな成長を願って支給する児童手当について、制度の普及・啓発に引き続き努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	制度改正に伴うシステムの改修、市民への周知等、適正な事務執行に努める。			○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
児童手当等の受給対象児童数	人	38,312	37,945			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	対象児童数は減少しているが、国の制度に沿って適切にサービス提供できた。また、新型コロナウイルス感染症が長期化し、より厳しい経済状況にある子育て世帯や、分散登校・家庭保育への協力等の影響を受ける子育て世帯を対象に各種給付金等を支給した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	児童手当等を支給することにより、児童の健やかな成長、家庭生活の安定に寄与することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	国・大阪府・庁内関係課との連携により手続きの簡素化について検討しつつ、継続実施していく。また、新型コロナウイルスの感染状況を見極めつつ給付金等の支給について検討を行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ③経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	1233	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	こども医療費の助成	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	子どもの健やかな育成を支援するため、子どもの医療費の一部を助成します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子どもの健やかな育成を支援するため、継続実施する。			○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
こども医療費の助成件数	件	434,297	522,732			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	令和3年10月から対象年齢を18歳到達年度末までに拡充し、子どもの健やかな育成と経済的支援を図ることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	対象年齢拡充に係る事務について、適正に執行できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子どもの健やかな育成を支援するため、継続実施する。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇子育て支援サービスの充実 ③経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	居住政策課						
実施事業	事業No.	1234	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	茨木市多世代近居・同居支援事業	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	多世代（親世帯と子世帯）が支えあって暮らせるまちづくりを進め、子育てや介護などの各世代が抱える不安の軽減を図ります。 子世帯（中学生以下の子どもがいる世帯または40歳未満の夫婦世帯）と親世帯（子世帯の父母または祖父母）のいずれかが近居・同居するために、住宅を購入または持ち家をリフォームした際に、市外から転入した世帯に費用の一部を補助します。（補助額／上限30万円）					
計画内容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	令和6年度において、交付件数を40件にする。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
補助金の交付件数	件	43	46			策定	40
						現在	40
できたこと（達成したこと）	補助制度の周知啓発により、活動目標（年間40件）を超える補助金を交付することができた。						
できなかったこと （達成できなかったこと）	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	市広報誌にて3か月に一度掲載し、また、市ホームページ、いばらき市民ハンドブックにて掲載、子育てイベント等での連携等により対象者へ周知することに加え、融資金融機関を通じ、住宅関連会社等へ広報したことにより活動目標（年間40件）を達成できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	制度の活用が継続される必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今年度以降もさらに制度が活用されるよう周知・啓発を継続する。
------------------------------------	--------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	中央図書館							
実施事業	事業No.	1235		ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子どもの読書活動推進		妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	子どもが読書に親しめるよう、読書環境の整備を図るため、ブックスタートの実施、おはなし会等様々な行事を実施するとともに、子どもの読書推進への理解や関心の普及・啓発のための講座を開催します。						
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度中にコロナ禍でもブックスタートの意義を伝えられるよう工夫する。またR5年度の新施設での実施方法を開館までに決定する。 ・R3年度中に新たな場所でのおはなし会を開催し、R6年までに開催回数を300にする。 ・R6年度までに講座の開催方法を工夫し、受講者数を400にする。 							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標①	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ブックスタートの絵本の配付数 (対象児1人に1冊絵本を配布)	冊	2,343	2,246			策定	2,500
できたこと(達成したこと)						現在	全出生数
できなかったこと (達成できなかったこと)							
できたこと(達成したこと)	絵本とともに、読書記録帳、本を介した親子の触れ合いの大切さを記載したリーフレットを配布し、本に親しめる環境を提供できた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	コロナ禍により、読み聞かせや絵本の紹介を十分にできなかった。						
活動指標②	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
おはなし会開催回数と参加者数	回	73	130			策定	420
	人	1,992	2,519			現在	300
できたこと(達成したこと)						策定	16,000
できなかったこと (達成できなかったこと)						現在	5,000
できたこと(達成したこと)	感染防止対策を取りながら、中央図書館や分館、小学校、幼稚園、保育所等で開催することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新たな場所でのおはなし会を開催することができなかった。						
活動指標③	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子どもの読書推進のための講座 開催回数と参加者数	回	3	7			策定	9
	人	126	345			現在	7
できたこと(達成したこと)						策定	320
できなかったこと (達成できなかったこと)						現在	400
できたこと(達成したこと)	感染防止対策を取り、参加人数を制限するなどして対面での講座を再開した。オンラインの講座も開催し、来館せずに受講してもらうことができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	対面での講座では、人数制限をせざるをえなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	対策を取りながらおはなし会を開催することができた。講座の開催においてはオンライン講座と対面開催を併用し、読書環境の整備や子どもの読書推進についての普及・啓発ができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	感染防止対策を取りながら、それぞれの事業を実施する方法を工夫する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度の新施設での開館までにブックスタートの実施方法を検討する。令和4年度中に私立の保育所等でのおはなし会ボランティア派遣を開始し、おはなし会の開催回数と参加者数を増やす。講座について対面とオンライン開催を併用し、引き続き子ども読書推進の普及・啓発を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課、地域福祉課						
実 施 事 業	事業No.	1236	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	世代間交流	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	〔地域福祉課〕子どもの社会体験・自然体験やスポーツ活動の機会を提供します。（シニアプラザ「シニアマイスター」からの講師選定を一部義務化） 〔こども政策課〕幼児から中学生を対象に、地域の高齢者が講師となり、昔遊び、手作りおもちゃ、囲碁・将棋の指導、絵本の読み聞かせ等の様々な体験学習を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	感染防止対策を実施しながら、令和6年度までに世代間交流事業の参加人数を3,000人にする。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（地域福祉課）		単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
世代間交流事業	実施回数	回	146	128			策定	60
	参加人数	人	1,680	2,027			現在	180
							策定	1,200
							現在	3,000
できたこと(達成したこと)		世代間交流事業の参加人数が増加し、高齢者と子ども世代との交流ができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の実施が中止となり、実施予定回数に満たなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部事業の実施が中止とはなったが、感染防止対策を実施しながら、高齢者と子ども世代との交流ができたため。
B		
活動目的を達成するための課題		高齢者と子どもの交流が主となるため、消毒等による感染防止対策の徹底が課題となる。

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	感染防止対策を実施しながら、令和6年度までに世代間交流事業の参加人数を3,000人にする。
------------------------------------	---

※同事業は地域福祉課で実施

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	人権・男女共生課						
実 施 事 業	事業No.	1237	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ローズWAM親子交流	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	保護者が男女共同参画の子育てを学び、就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供します					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	保護者が男女共同参画の子育てを学び、就学前児童と保護者がリズム遊びや手遊び等で楽しく遊ぶ機会を提供する。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
講座等に参加した親子等の人数	組	19	18			策定	50
						現在	50
できたこと(達成したこと)	感染防止対策により安全に配慮しながら講座を開催することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	コロナ禍により参加者数が少なく開催できない日程があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	安全面に配慮してコロナ禍においても継続して実施したことにより、親子交流の機会を提供できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	共働き家庭が参加しやすい日程で開催し、新たな参加者を増やす必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	土日の開催日を設けるとともに、新たなテーマを取り入れて新規参加者を増やす。
------------------------------------	---------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	歴史文化財課						
実 施 事 業	事業No.	1238	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子供向け文化財普及啓発活動	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	子ども向けの展示や体験学習、イベントの実施に積極的に取り組み、子どもが本市の歴史・文化財に興味を持つ機会の提供に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和4年度は、郷土史料室において、子ども向け図書を拡充する。 令和5年度は、展示室に体験コーナーを設置する。 令和6年度は、体験学習教材を製作する。			○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
夏休み体験学習講座参加者数	人	0	31			策定	40
						現在	40
展示等における子ども向け企画開催回数	回	2	3			策定	2
						現在	2
出前授業等の参加者数	人	755	1,722			策定	1,000
						現在	1,000
できたこと(達成したこと)	遠隔授業（ZOOM）に加えて、対面による出前授業を実施することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ対策により体験学習の人数を制限したため、参加者数が目標に至らなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ対策による制限がありながらも、対面によるイベントも再開でき、歴史・文化財に興味を持つための機会を概ね提供できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	コロナ対策を講じる中での取組や工夫、Web 会議システム等の活用といったノウハウの蓄積と効果の検証。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	可能な限り対面での活動を行い、引き続き Web 会議システム等も活用しながら創意工夫を凝らし、より多くの機会を提供できるように取り組む。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇地域ぐるみの子育て、子ども・若者支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1239	ライフステージ				
	事業名	子ども・若者支援地域協議会	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	社会的 支援 ワーク・ ライフ ・バ ランス 貧困 計画
	事業内容	子ども・若者支援地域協議会に参画する様々な支援機関・団体の専門性を活かし、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の状況に応じた支援を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	今後も継続して、様々な支援機関・団体の専門性を活かし、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の状況に応じた支援を行う。		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
機関を越えたコラボ事業 (会議・研修会・イベント等)実施回数	回	8	12			策定	10
						現在	15
ケース会議開催回数	回	113	79			策定	155
						現在	155
できたこと(達成したこと)	ひきこもり(中高年のひきこもり)、教育・福祉(中学校卒業後の切れ目のない支援)等、様々な分野で部会を実施することで、昨年度よりも更に関係機関と連携した実用的な支援を検討する機会を設け、進めることができた。 コロナ禍でひきこもり等の研修会に参加できない支援者や市民の方を対象に、支援や見守りのポイントをわかりやすく伝えるため、動画を作成し、YouTubeで視聴が可能になった。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	茨木市更生保護サポートセンター、茨木市立中学校、府立高等学校(福井、箕面東)、茨木支援学校などの協議会構成機関が増え、更なる連携が可能になったため。
B		
活動目的を達成するための課題	不登校・ひきこもりだけでなく、ヤングケアラーを含む課題等が複雑多様化しているため、その実態の把握を行い、新たな施策や支援方法等を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度に関係庁内課で構成するヤングケアラー部会を設置し、実態調査を予定している。その調査結果を踏まえて、今後の支援方策等を検討する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	健康づくり課						
実 施 事 業	事業No.	1301	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	食育システムによる講座	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	児童・生徒や、市民を対象に栄養バランスをすぐにチェックできる食育システムを使い、バランスの良い食生活を学ぶ講習会を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	食事バランス診断 SAT システムによる教育 小・中学校との連携をより一層強化し、併せて3か所以上の講座実績/年を目標				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
学校版SAT出前講座実施人数	人	0	0			策定	500
						現在	500
できたこと(達成したこと)	実施できなかった。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	感染症拡大防止のため、実施できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実績が低く、評価困難であるため。
—		
活動目的を達成するための課題	感染症対策に留意しながらの取組が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	3密対策や消毒など、実施方法について検討を行う。 過去に実績のある学校への呼びかけ。開催が難しい場合は小・中学校の保護者向けリーフレットを作成して啓発。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	健康づくり課						
実施事業	事業No.	1302	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子どもクッキング	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	児童・生徒が食生活の大切さを学び、望ましい食習慣を身につけられるよう、調理実習等の講習会を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	調理実習 令和5年度10月～の新施設オープンに伴い、調理実習の企画数を増やす。募集人数も実習室の容量に沿って増やす。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
開催回数	回	0	0			策定	3
						現在	3
参加者数	人	0	0			策定	30
						現在	30
できたこと(達成したこと)	実施できなかった。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	感染症拡大防止のため、実施できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実績がなく、評価困難であるため。
—		
活動目的を達成するための課題	感染症対策に留意しながらの取組が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	3密対策や消毒など、実施方法について検討を行う。 新施設オープンに伴って既存事業に加え新企画の提案。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課						
実施事業	事業No.	1303	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	健康管理への支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	小・中学生自らが心身の健康管理ができるよう、健康づくりや生命の大切さ、十代の性に関する正しい知識の普及を支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	出前型講座を実施していない小・中学校への取組を推進していく。また、思春期保健教育において必要な対策や取組について、思春期保健教育に関わる関係機関との連携を図り、検討していく。			○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
(思春期教育等の教育用媒体等貸出数) 沐浴人形	件	7	7			策定	増やす
						現在	増やす
妊娠シミュレーター	件	3	3			策定	増やす
						現在	増やす
できたこと(達成したこと)	出前講座を開催できた学校では、生徒らの年齢に応じた講座を行うことで当事者意識を持って受講してもらえた。感染症流行状況により外部講師の受け入れが不可の学校では、こちらから資料を提供することで、養護教諭が自ら講座を開催できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	緊急事態宣言の発令により、講座依頼があったが開催できない学校があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	出前講座を開催できた学校では、生徒らの年齢に応じた思春期講座を行うことで興味を持って受講してもらえた。また、感染症拡大防止に配慮しつつ、学校のニーズや社会情勢に応じた方法で思春期保健の知識を普及することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	社会状況に応じた講座方法や内容を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、思春期保健教育の必要性や出前講座の実施を関係機関に周知する。また、感染症拡大防止に配慮しつつ、学校のニーズや社会情勢に応じた方法で思春期保健の知識を普及していく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	健康づくり課						
実施事業	事業No.	1304	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	防煙教育	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	たばこに関する正しい知識の普及や、教材貸出を通じて、児童・生徒に対する防煙教育を支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	教材貸出 受動喫煙防止の視点で、市広報誌やホームページ等での周知を引き続き行う。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
教材の貸出回数、人数（対象の生徒数）	回	1	2			策定	-
						現在	-
	人	175	320			策定	-
						現在	-
できたこと（達成したこと）	貸出希望に応じ、2回のみの実績であった。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実績が低く、評価困難であるため。
-		
活動目的を達成するための課題	平成25年度から実施してきたが、近年は実績が低くなってきている。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後は受動喫煙を防止するための環境づくりを推進していく。
------------------------------------	------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇児童・生徒の健康への支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	1305	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	デートDV防止啓発	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	デートDV予防啓発冊子を市内中学校等に配布し、暴力によらない問題解決能力を身につける教育を推進します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・デートDV予防啓発冊子を市内中学校等に配布する。 ・暴力によらない問題解決能力を身につける教育を推進する。 				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
デートDV予防啓発ワークショップ実施回数	回	3	2			策定	5
						現在	5
できたこと(達成したこと)	感染防止対策を講じながら講座を開催することができ、デートDVに関しての予防啓発を図ることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、小中学校をはじめとする教育機関に出向いての実施が難しい状況であった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	高校でのワークショップを交えた実践により、予防啓発を行うことができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	感染状況を見極めて、取組を進める必要がある。また、対面の実施だけではなく、ホームページ等の媒体を使った啓発も行う必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	感染状況を見極めながら、できるだけ安全にできる内容を検討し、引き続き取り組んでいく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ①「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学校教育推進課						
実 施 事 業	事業No.	1306	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	学力向上	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	
	事業内容	これまでの12年間の学力向上施策の成果と課題を踏まえた第5次計画に基づき、実践的教育活動の活性化と本市の教育振興を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	学力向上の取組みについて、各校の進捗状況を把握するとともに、効果のある取組みを行っているかどうか、検証を行い、第5次プランの取組みにつなげる。				○		★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
全国学力・学習状況調査の正答率	正答率 全国平均： 1.000	調査が中止となったため数値挙げられず	小学校			策定	1.0 以上
			1.039			現在	小:1.032 中:1.023
学力低位層の率	正答率 全国平均： 1.000	調査が中止となったため数値を挙げられず	小学校			策定	1.0 以下
			0.880			現在	小:0.854 中:0.952
できたこと(達成したこと)	学力向上担当者会等で、学力の課題分析やモデル校の学力向上の取組みを発信することができ、小学校・中学校ともに前回調査比較で正答率・学力低位層ともに改善が見られた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	2学期は分散登校の時期もあり、モデル校の公開授業研や中学校区でのブロック合同授業研、小中連携の取組みについては制限もあり、予定どおり行うことができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	正答率では小学校は活動指標の目標数値を上回っているが、中学校では0.001届かなかった。また学力低位層の率においては、中学校は目標値を超えているが、小学校では目標値に届いていないため。
B		
活動目的を達成するための課題	各校の学力向上担当者が校内のリーダーとして組織的な校内体制を構築し、ICTの効果的な活用を含め小中連携を図りながら、校内全体で学力向上の取組みをすすめる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	各学期の学力向上担当者会にて、改めて市の方針（重点項目）を示し、各校の学力向上計画等に基づいた取組みが一層進むよう、モデル校の取組みや好事例を発信し、共有を行うことで市内全体の学力向上を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ①「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1307	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	体力向上	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	児童・生徒に、生涯にわたって運動に親しむ知識・技能や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持・増進と体力の向上を図ります。小・中において、スポーツテストを実施し、児童・生徒が自らの体力の状況を知り運動への動機づけとするとともに、市内及び学校全体のデータを体育指導に有効に活用します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の元気力向上担当者会を実施する。 ・小学4年生から中学3年生までの6年間のスポーツテストを各校で実施する。 ・令和5年度までに元気力向上担当者と食育担当者の合同交流会を実施する。 				○	★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
体力合計点	(点)	調査が中止となったため、数値を挙げられず	小：52.7 中：42.5			策定	向上
						現在	小：53.5 中：44
「運動スポーツが好き」と回答する割合	(%)	調査が中止となったため、数値を挙げられず	小：85.3 中：79.3			策定	向上
						現在	小：90 中：85
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会で体力向上と保健教育、食育を連携させた取組の意義等を教員に伝達し、各学校の実情に合わせた取組を推進することができた。 ・心の健康と運動を関連付けた研究授業を実施できた。 						
できなかったこと(達成できなかったこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・R2に調査中止になったため、各校のプランが作成できなかった。 ・感染対策を優先したため、運動機会が減少した。 						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	感染対策を徹底したうえで、スポーツテストや、担当者会、研究授業等の取組みが実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	感染対策を講じればできる運動を工夫するなど、各校での元気力向上の取組みをすすめる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	<ul style="list-style-type: none"> ・各校で元気力向上プランを作成し、取組みを市内で共有する。 ・取組みや好事例を紹介し、各校の次年度のプランに活かす。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ①「確かな学力」と「豊かな心」を育む教育の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	施設課						
実施事業	事業No.	1308	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	学校施設の整備	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	快適な学習環境を整備するため、校舎の大規模改修や、便所改修・バリアフリー化への対応など、設備の充実に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	小中学校において年次的に便所改修、大規模改修を実施する。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
大規模改修や便所改修等設備の充実 (小中学校営繕事業)	便所 (校)	小3	小5			策定	小5
		中0	中3			現在	中2
	大規模 (校)	小0	小1			策定	小2
		中0	中1			現在	中1
できたこと(達成したこと)	便所改修について、小学校5校、中学校3校の工事が完了した。大規模改修について、小学校1校、中学校1校の工事が完了した。バリアフリー化として小学校2校、中学校1校にエレベーターを設置した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	国の補助金を効果的に活用し、計画どおり実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	施設整備における予算の確保。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	施設整備には多額の経費を要するため、国の補助金を活用するとともに、経費の平準化を図りながら優先順位を定めて計画的に事業を進めていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ②就学及び進路・進学のための支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課						
実施事業	事業No.	1309	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	就学援助	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	小・中学校に通学している家庭で、学用品費、修学旅行費等の支払いが困難な家庭に、その費用を補助します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 援助費を適正に支給し、保護者の経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施に資する。 ・ 支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、制度の周知に努める。 				○	★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定児童生徒数	人	3,158	3,049			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	CSW に制度を説明し、対象になりそうな方への周知を依頼、広報誌、市ホームページ、Facebook、Twitter へ記事を複数回掲載するなど、制度のさらなる周知をおこなった。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	援助費を適正に支給することで、保護者の経済的負担を軽減しているため。
A		
活動目的を達成するための課題	引き続き、適正に支給していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。申請方法について、定期的に振り返り、改善を検討する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ②就学及び進路・進学のための支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課						
実施事業	事業No.	1310	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	奨学金（入学支度金）の支給	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	進学に必要な能力と意欲を持つ生徒が、家庭の事情や経済的理由により進学をあきらめることなく、自らの能力や適性等にあった進路を自由に選択できるよう、奨学金（入学支度金）を支給します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 奨学金を適正に支給し、向学心のある生徒の高校等への修学を助成する。 支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、制度の周知に努める。 				○		★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定生徒数	人	134	163			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	保護者に制度案内を確実に届けるため、中学校での担任と保護者との進路面談時に直接配付するよう、中学校に依頼した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	奨学金を支給することで、保護者の経済的負担を軽減し、向学心のある生徒の高校等への修学を支援できているため。
A		
活動目的を達成するための課題	引き続き、適正に支給していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。申請方法について、定期的に振り返り、改善を検討する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇特色ある学校教育の充実 ②就学及び進路・進学のための支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課						
実施事業	事業No.	1311	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	山地部児童・生徒通学費補助	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	通学の安全を確保するために、山地部でバス通学の許可を受けた児童・生徒に、通学費を補助します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	補助金を適正に支給し、児童生徒の通学の安全を確保するとともに、保護者の通学費負担を軽減する。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定児童生徒数	人	47	39			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症防止のための分散登校措置に対して、保護者の通学費負担の実情に対応できるよう、支給対象を変更した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	補助金を適正に支給することで、保護者の通学費負担を軽減し、児童生徒の通学の安全確保に繋がっているため。
A		
活動目的を達成するための課題	引き続き、適正に支給していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、制度の周知を図りながら、適正に支給していく。
------------------------------------	-----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	教育センター							
実施事業	事業No.	1312	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	小・中学生及びその保護者に対する教育相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期		
	事業内容	児童・生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路、不登校等の教育に関して、電話・面接による相談を実施します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	児童・生徒の学習、性格、行動、身体、発達、進路、不登校等の教育に関して、電話・面接による相談を実施します。						○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
教育相談の実施	件	1,419	1,390			策定	1,400
						現在	1,410
	回	6,566	7,835			策定	6,700
						現在	7,835
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の不安や悩みに寄り添い、精神的な安定を図ること。 ・感染防止対策の徹底。 						
できなかったこと(達成できなかったこと)	申し込みから初回面談までの待機時間の短縮。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談回数は令和6年（目標）を上回り、相談者の不安や悩みに寄り添い、精神的な安定を図ることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	申し込み方法や相談体制の改善。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年4月より、相談枠の拡充や申し込みのオンライン化等に取り組む。
------------------------------------	------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1313	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	生徒指導（いじめ・不登校問題行動等）への対応	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	いじめ、不登校等の問題行動に対し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、いじめ対策指導員が小中学校と連携し、迅速かつきめ細やかに対応する学校体制の構築を支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 各校にSCおよびSSWを配置する。 学校の生徒指導体制にSCおよびSSWを位置づけ、適切な活用や好事例を紹介する研修を実施する。 				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
小中暴力行為発生件数	件	181	173			策定	144
						現在	150
小中不登校児童生徒数	人	441	508			策定	396
						現在	400
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> 各小中学校では、ケース会議等を通じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、いじめ対策指導員など、専門的スタッフと積極的に連携を行うことで、一人ひとりに適切な支援を行うことができた。 経験の浅い教職員を対象にいじめ不登校シンポジウムを開催し、いじめや不登校の早期発見についての研修を行った。 						
できなかったこと(達成できなかったこと)	不登校の解消に向けて学校は取り組んでいるが児童生徒数は増加した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	各校が専門的スタッフ活用の必要性についての理解が進み、ケース会議等でスクールソーシャルワーカーと連携し、解決につながるケースが増えてきたため。
B		
活動目的を達成するための課題	いじめ認知や早期発見の取組みの好事例を普及する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	<ul style="list-style-type: none"> 年度内にいじめや不登校等、問題行動に対する考え方や、早期発見早期対応ができる体制づくりの研修を実施する。 専門的スタッフの活用や学校体制での取組みの好事例を収集し、各校に普及する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学校教育推進課							
実 施 事 業	事業No.	1314	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期		
	事業内容	配慮が必要な児童・生徒や家庭を福祉面で支援するため、社会福祉の専門的な知識・経験をもつスクールソーシャルワーカー（SSW）を中学校区に配置するとともに、教育相談体制を充実させるため、スクールカウンセラー（SC）を全小学校に配置します。						
計 画 内 容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールソーシャルワーカー 令和6年度までに、スクールソーシャルワーカーの配置を1人2中学校区にする。 ・スクールカウンセラー 令和6年度までに相談件数を10,000件とする。 						○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
相談件数・回数	SC(件)	9,970	11,473			策定	10,000
						現在	12,000
	SSW(件)	5,962	7,488			策定	3,300
						現在	8,000
できたこと(達成したこと)	スクールソーシャルワーカーの増員により、多くの相談に対応できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	相談件数が増加したことにより、スクールソーシャルワーカーが関わる事案も増加したため、きめ細かに対応できない事案があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用が増えることにより、認知が広がり相談件数が増加したため。
B		
活動目的を達成するための課題	事案により、相談件数の増加より、各ケースの対応及び解消について綿密に対応方策をすすめていく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和6年度までに、定例会の中でケース検討を行う。
------------------------------------	--------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇様々な悩みに対応する体制の充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	教育センター						
実 施 事 業	事業No.	1315	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子ども本人からの相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	子ども本人からのいじめ等に対して電話による悩み相談を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子ども本人からのいじめ等に対して電話による悩み相談				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子ども本人からの電話相談数	件	2	6			策定	5
						現在	6
できたこと(達成したこと)	様々な悩みについて傾聴し、アドバイス等を行うなど解決に向けた迅速な対応。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	いじめホッと電話相談の啓発。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	解決に向けた迅速な対応ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	引き続き、解決に向けて迅速に対応すること。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	いじめホッと電話相談啓発カードの配布の仕方の工夫。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	社会教育振興課						
実施事業	事業No.	1316	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	こども会活動の支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	こども会活動を通じて地域の子どもたちの自主性や社会性を養うことができるよう、様々な体験活動を実施できるよう支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	コロナ禍以前の市主催こども会行事を開催できるよう茨木市こども会育成連絡協議会と開催方法などについて協議していく。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
こども会を対象に開催した事業数	回	1	2			策定	7
						現在	7
できたこと(達成したこと)	感染対策を徹底した上で、こども会親善スポーツ中央大会と、レクリエーションのつどいを実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	こども会親善百人一首カルタ競技大会は感染リスクが高いため中止した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	実施した事業が、コロナ禍において活動を続けてきたこども会の励みとなり、開催への感謝の声も寄せられたため。
B		
活動目的を達成するための課題	コロナ禍での感染リスクの高い活動などの実施について、茨木市こども会育成連絡協議会と協議していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	主催事業に参加することを目的に活動しているこども会もあるため、参加しやすい事業となるよう、茨木市こども会育成連絡協議会と協議し、方法や内容について、適宜見直しを行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	スポーツ推進課						
実施事業	事業No.	1317	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画	
	事業名	スポーツ少年団の育成	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	地域社会の中で、スポーツを通じて子どもの健全育成を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスポーツデー等のイベントの実施 ・市HP等による広報活動の協力 				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
スポーツ少年団の登録団員数	人	519	554			策定	570
						現在	570
できたこと(達成したこと)	スポーツ少年団団員数増加に僅かながら貢献できた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、団員を増やすきっかけとするキッズスポーツデーを開催できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍においても会員数をおおよそ維持できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	スポーツに興味を持つように、市広報誌やホームページにより団員の募集や教室の周知を行う。スポーツを体験する機会の提供を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	キッズスポーツデー等のスポーツの体験ができるイベントを引き続き実施し、団員の減少に歯止めをかける取組を行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	スポーツ推進課						
実施事業	事業No.	1318	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	スポーツ環境の整備	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	総合型地域スポーツクラブの支援など地域におけるスポーツ環境を整備します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の優先使用 ・広報活動の協力 			○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
総合型地域スポーツクラブ会員数	人	1,239	1,218			策定	1,560
						現在	1,560
できたこと(達成したこと)	施設の優先使用や広報などで支援した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	会員数を増やす有効な取組みが行えなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍でも、会員数をおおよそ維持できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	会員数を増やす有効な取組みを検討する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	クラブの現状を把握し、会員数を増やすための手段をクラブと共に検討し、維持のための支援や広報を行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	環境政策課						
実施事業	事業No.	1319	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	環境教育・啓発	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	将来を担う子どもたちをはじめとする幅広い市民を対象に、環境に関する学習会・研修会・観察会等を開催し、環境保全意識を高め、環境行動につなげていきます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに、小学校向け環境学習プログラムの実施回数を30回にする。 そのため、ボランティアも含めて、学校に取り入れやすいプログラムを検討していく。また、令和4年度から、小学生向けに環境啓発の動画を作成し、環境教育への活用を小学校に促していく。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
小学校向け環境学習プログラムの実施回数	回	18	19			策定	30
						現在	19
こどもエコクラブへの登録者数	人	57	45			策定	80
						現在	45
できたこと(達成したこと)	環境学習プログラムの活用実績がある小学校については、繰り返しプログラムが実施されており、環境学習が定着してきている。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	過去に環境学習プログラムが活用されていない小学校に対して、新たにプログラムを実施してもらえるようなアプローチが出来ていない。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルスの影響下において外部との対面を控える傾向があり、環境学習プログラムの実施回数が増やしていく要因となっているため。
C		
活動目的を達成するための課題	引き続き新型コロナウイルスの影響が残っており、プログラムの実施が難しい状況となっている。また、プログラムの担い手となるボランティアの高齢化が進んでいるため、新たなボランティアを増やしていく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度から5年度にかけて、環境学習プログラムの担い手となるボランティアの登録数を増やしていき、新たなボランティアも含めて、学校に取り入れやすいプログラムを検討していく。また、プログラムを実施している現場に立ち会いながら、小学校のニーズを把握するよう努めていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	社会教育振興課						
実施事業	事業No.	1320	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	家庭教育支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	子どもを育成するために必要な知識及び技術を身に付け、保護者としての家庭教育力の向上を図るとともに、保護者どうしの連帯を深めるための学習の機会を提供します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	家庭教育を支援するため、保護者同士が交流し学び合う各種講座等を実施し、学習機会の提供を行う。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
家庭教育関係事業実施回数	回	6	13			策定	25
						現在	25
できたこと(達成したこと)	関係団体と連携し、オンラインで子育てについて語り合う、よりみちルームや親学び講座を実施した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	よりみちルームについては、参加者が少なく定期的な実施ができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍ではあるが、オンライン活用等を取り入れることで、学習の機会が提供できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	情報化の進展や保護者の就労等の社会情勢の変化に応じて、その内容や実施形態等を見直していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ICT 活用や関係団体との連携等により、社会的課題を踏まえた学習機会の提供と、保護者同士のつながりを促す取組を引き続き進める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課、学校教育推進課						
実施事業	事業No.	1321	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	乳幼児とのふれあい・交流	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	子どもを生み育てることや生命の大切さなどを学ぶことができるよう、乳幼児とのふれあい体験の機会を提供します。					
計画内容 (具体的な活動 計画を簡条書 きで記述)	各学校の実施意向を確認し、依頼のあった学校がふれあい学びが実施できるようサポートする。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（子育て支援課）	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
「ふれあい学び」派遣学校数	校	1	2			策定	5
						現在	5
「ふれあい学び」参加者数 (保護者及び乳幼児)	人	11	-			策定	453
						現在	50
活動指標（学校教育推進課）	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
公立中学校での実施	校	11	12			策定	7
						現在	14
できたこと(達成したこと)	(子育て支援課) コロナ禍のため、直接触れ合うことができず、SNSを使ったオンラインでの実施となった。 (学校教育推進課) 赤ちゃん人形のだっこ体験や助産師による講演など「命の大切さ」に学習をすることができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	(子育て支援課) 新型コロナウイルス感染症の影響で、直接触れ合うことができず、依頼が減少している。 (学校教育推進課) 新型コロナウイルスの影響で講演や体験活動が難しかったが、オンラインを活用したり、感染対策をして実施した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	(子育て支援課) コロナ禍で「ふれあう」ということが難しく、学校からの依頼が減少しているなかで、オンラインを活用した新たな取組ができたため。 (学校教育推進課) コロナ禍においても、オンライン等を活用し実施することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	(子育て支援課) 社会情勢に応じた対応を検討する必要がある。 (学校教育推進課) コロナ禍であっても、引き続き、継続して実施していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	(子育て支援課) 各学校等の意向を受けて実施する取組であり、実施を検討している学校と、どのような開催方法が可能かなど、情勢に合わせて考えていく。 (学校教育推進課) 事業の丁寧な説明を年度初めに行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	都市政策課						
実施事業	事業No.	1322	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子どもたちの体験型まちづくり学習	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	子どもたちの「まち」や「まちづくり」への関心を高め、将来のまちづくりの担い手としての成長を期待して、体験型の学習の場を提供します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	R3年度 区画整理事業における新たなまちができる様子を体験できる講座を実施 R4年度 まちづくり塾の運営等をリニューアル R5年度以降 新たな内容で塾を開催					○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
参加人数	人	0	0			策定	30
						現在	0
できたこと(達成したこと)	特になし。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	コロナ禍において、まん延防止等の措置が実施されたことにより、人が集まるのが難しい状況であったことから、まちづくり塾の開催を見送った。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	社会情勢における不測の事態により開催ができなかったことから、活動自体に対する評価ができなかったため。
-		
活動目的を達成するための課題	子供たちに関心を持ってもらう内容やいろいろな課題解決につながる内容を検討する必要がある。また、アフターコロナの状況を踏まえた検討も必要。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度の見直しにおいて、課題を解決できるような企画・運営となるよう、大学等の関係者からの意見も踏まえながら検討を進める。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇学校・地域・家庭の連携

■計画【Plan】／実施事業

担当課	市民生活相談課						
実施事業	事業No.	1323	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	市内大学・高校への出前授業及び子ども向けセミナー	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	幅広い市民を対象に消費生活に関するイベントの開催や学校、地域での出前授業を実施するほか、保護者や学校関係者への情報提供などに努め、自立した消費者を育成します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	ターゲットに応じ、実施手法等を工夫しながら引続き実施する。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
市内大学・高校等への出前授業実施校数	校	1	4			策定	10
						現在	7
子ども向けセミナー実施回数	回	0	0			策定	3
						現在	1
できたこと(達成したこと)	対象者に消費者トラブルの内容や対処法等について理解してもらうことができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の拡大等により、セミナーを開催することができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の拡大等により、学校関係者への働きかけが十分にできなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	学校関係者などに消費者教育の必要性を認識してもらうほか、市民等の意識の変化を踏まえ、手法について検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	学校や関係機関との連携を図り、受講者にとって興味・関心のある講座となるよう工夫するほか、未実施校への働きかけ等に努める。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1324	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	上中条青少年センターの運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	放課後や休日に自由につどい、遊び、年齢を超えて交流できる居場所づくりを進めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	引続き、学習スペース等の利用を推進し安全安心な居場所を提供する。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
利用者数	人	5,494	6,368			策定	8,500
						現在	8,500
できたこと(達成したこと)	基本的な感染対策の徹底のほか、アクリルパーティションの設置。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	コロナ禍による定員の制限や施設の休館があり、居場所の提供ができない期間があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	「青少年センターだより」等を通して、学習スペース等の周知を図るとともに、利用者も増加しているため。
B		
活動目的を達成するための課題	周知の工夫と安全・安心な居場所となる設備等の充実。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	利用促進に努めるための、「青少年センターだより」やHPで周知を図る。また、必要な設備の更新を行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	地域福祉課、こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1325	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	多世代交流センターの運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	小学生が放課後や休日に自由につどい、遊び、 中高生が学べる居場所づくりを進めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	感染防止対策を実施しながら、令和6年度までに子ども利用延べ人数を15,000人にする。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（地域福祉課）	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
学習室利用延べ人数	人	2,633	2,377			策定	6,000
						現在	6,000
子ども利用延べ人数	人	3,882	4,395			策定	15,000
						現在	15,000
できたこと(達成したこと)	感染防止対策を実施し、前年と比較して子ども利用延べ人数が増加した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	学習室利用延べ人数については、前年の数値に届かなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	学習室利用延べ人数については、前年の数値に届かなかったが、子ども利用延べ人数は増加したため。
B		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、継続的な利用者が減少し、こどもフリールームや学習室の開放について、改めて周知する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	新型コロナウイルス感染拡大の影響が少なくなると見込まれる令和6年までに、感染防止対策を実施し、周知方法を検討しながら、子ども利用延べ人数を15,000人にする。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1326	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	ユースプラザの運営	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	中学生からおおむね39歳までの子ども・若者が、気軽に過ごすことができ、社会体験や交流・相談ができる居場所づくりを進めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子ども・若者の地域における孤立防止を目的に、ユースプラザの更なる利用につなげるため、学生ボランティア等、利用者と年齢が近いスタッフを積極的に入れる等の工夫で継続利用につながる取組を更に進める。				○	○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ユースプラザの推奨度（本人・保護者・先生・支援者）	%	48.1	43.7			策定	増加
						現在	48.1
ユースプラザふれあい・交流サロンのべ利用者数	人	7,349	13,948			策定	増加
						現在	15,342
ユースプラザ居場所のべ利用者数	人	3,120	4,815			策定	増加
						現在	5,296
ユースプラザ相談事業のべ利用者数	件	2350	2536			策定	増加
						現在	2,789
できたこと(達成したこと)	中学校、SSW、地域との連携や周知が進み、ユースプラザ利用者数の増につながった。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	一つのケースを複数の支援者と連携して支援を進める事案が増えたことから、支援方法やゴール設定等の共有が足りなかったケースが見受けられた。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	中学校、SSW、地域との連携が進み、ユースプラザ利用者数の増につながり、当事者と保護者のユースプラザの推奨度は上昇したため。一方のべ利用者数も、コロナ禍で館が閉館した時期があったにもかかわらず、増加しているため。
B		
活動目的を達成するための課題	不登校・ひきこもりだけでなく、ヤングケアラーを含む様々な課題等が複雑多様化しており、支援計画作成や状態改善に向けた支援に時間がかかることがある。また、時に相談支援の質が一定ではなく、支援員によって偏りが見られる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	現在の仕様書を変更し、委託事業者の再公募を行うと共に、「相談支援に関する指針」を示し、支援力の向上を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学童保育課						
実 施 事 業	事業No.	1327	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	学童保育室の運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	放課後、保護者が家庭にいない主に小学校低学年児童を預かり、児童の健全育成を図ります。集団規模の適正化や時間延長などに対応するほか、施設の充実を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	入室児童数の見込みにより教育委員会・小学校と連携し、引き続き場所の確保に向けて協議する。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
入室児童数	人	2,586	2,525			策定	2,830
						現在	2,866
支援の単位数	クラス	69	70			策定	77
						現在	81
できたこと(達成したこと)	小学校の低学年図書室を借用するなどして、クラス数を増加させた結果、待機児童は発生しなかった。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	待機児童の発生がなかったため、おおむね達成できている。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	待機児童の発生なく、事業を実施することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	場所の確保が困難な中、学童保育室の受入れ可能人数を増加させる方策を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入室児童数の見込みにより、教育委員会や小学校と場所の確保に向けて協議する。
------------------------------------	---------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学童保育課						
実施事業	事業No.	1328	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	放課後児童健全育成事業の支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	放課後児童健全育成事業を行う民間事業者に対し、運営費の一部を補助することにより、待機児童の解消を図るとともに、児童の安全・安心な居場所の確保に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	民間事業者への効果的な補助内容の検討と周知を行い、待機児童の発生を抑制する。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
民間学童補助施設数	施設	9	11			策定	9
						現在	21
できたこと(達成したこと)	民間学童の運営費の一部を補助したことにより、公立学童保育室の入室児童数増加が緩和され、待機児童解消につながった。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	待機児童の発生がなかったため、おおむね達成できている。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	運営費の一部を補助し、公立学童保育室の入室児童数が緩和され、待機児童が発生しなかったため。
A		
活動目的を達成するための課題	学童保育室入室児童の増加が見込まれ、また、場所の確保も困難である小学校区の児童を民間事業者が積極的に受け入れてもらえる方策の検討。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き民間学童の運営費の一部補助を行い、また、民間事業者からの事業開始相談の際に、今後の児童数の見込みとのマッチングを行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学童保育課						
実 施 事 業	事業No.	1329	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	学童保育室指導員の研修	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	児童個々の課題に対応できる知識・技能を身につけるよう指導員研修を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	様々な課題を持つ児童に対応できるよう指導員の資質向上につながる研修を実施する。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
研修実施回数	回	10	16			策定	25
						現在	23
できたこと(達成したこと)	指導員の資質向上、専門性を高めるための研修を実施した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施回数が減少した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	指導員の専門性と資質の向上につながったため。
A		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、実施方法や講師選定を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	研修の対象者や研修内容、講師、年間開催回数を年度初めに検討し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しながら、開催方法を柔軟に判断していく必要がある。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1330	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	放課後子ども教室の推進	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	放課後等に子どもたちの安全で健やかな居場所の確保を図るため、地域住民や大学生等の参画を得て、子どもたちと諸活動に取り組み、地域社会全体で地域の子どもたちを見守り育む居場所づくりを推進します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	コロナ禍での教室運営や課題等について、各校区と情報共有を図り、安全・安心な居場所の提供に努める。				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
実施回数	日	0	200			策定	3,019
						現在	3,019
できたこと(達成したこと)	地域の実情に応じ約2か月半の期間ではあったが、感染対策を講じて実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナの影響により、年間を通しての実施が出来なかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	パーティションの設置やソーシャルディスタンスの確保などコロナ禍における教室運営について、研究会や代表者連絡会で各校区と共有を図り、実施したため。
B		
活動目的を達成するための課題	コロナ禍における教室運営。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	コロナ禍における教室運営の課題について、代表者連絡会等を通じて各校区と共有し解決策を検討する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇安全で安心な居場所づくり

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	学童保育課、社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1331	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	新・放課後子ども総合プランの推進	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	学童保育室と放課後子ども教室の両事業に児童が参加しやすくなるような環境整備や学童保育指導員と放課後子ども教室コーディネーターの連携促進に努め、放課後の居場所の充実を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	引続き一体型での事業実施ができるよう情報共有を図る。				○		★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
一体型の小学校区数	校	30	30			策定	30
						現在	30
できたこと(達成したこと)	学童保育室と放課後子ども教室の児童と一緒に体験することができるプログラムの実施。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	放課後子ども総合プラン運営委員会の実施。(コロナ禍のため)						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	両事業の従事者が連携して情報共有を図り、事業を実施できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	両事業実施状況の共有。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	放課後子ども総合プラン運営委員会等により、情報共有を図る。
------------------------------------	-------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇若者への自立をめざした支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1401	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年に関する相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	青少年とその保護者の相談に応じ、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	「どこに相談していいかわからない」時に相談できる窓口を継続する。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
相談件数	件	3	0			策定	5
						現在	5
できたこと(達成したこと)	「青少年センターだより」や「相談機関への道しるべ」等による周知。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	十分な周知。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談は無かったが、「青少年センターだより」等により、定期的な周知を図ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	相談窓口であることの周知方法の検討。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	相談窓口の周知と相談内容に応じ、関係機関と連携を図る。
------------------------------------	-----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇若者への自立をめざした支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	1402	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子ども・若者自立支援センター	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	ひきこもり等の状態にある子ども・若者が社会参加できるよう、「子ども・若者自立支援センター」において、ひきこもり等の当事者や家族の相談・支援を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	生きづらさを抱える子ども・若者の状態改善を図るため、茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」において、ひきこもり・ニート・不登校等の子ども・若者とその保護者の個別専門支援を継続実施する。					○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
スモールステップの段階（自立度）アップ率	%	96.0	96.9			策定	95.0
						現在	95.0
できたこと(達成したこと)	茨木市子ども・若者支援地域協議会の構成機関向けに開催した講習会は、福祉や教育等、様々な機関からの参加があり、参加者アンケートの結果は高評価であった。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」では、相談者の増加に伴い事務量も増加していることから、職員の残業等が解消できていない。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	スモールステップの段階（自立度）アップ率が昨年度と比べ上昇していることから、子ども・若者の状態改善を図ることができているため。
B		
活動目的を達成するための課題	茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」における職員のオーバーワークが課題である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	茨木市子ども・若者自立支援センター「くろす」の委託料に事務員1名の人件費を上乗せし、業務改善を促す。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就労の支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	商工労政課							
実施事業	事業No.	1403	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画	
	事業名	就職サポート	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	事業内容	就労支援などを行う関係機関と連携し、就職困難者等の職業的自立をめざすため、就職相談、講習会・セミナーの実施や職業訓練校等への誘導、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援を行います。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 就労相談を実施する。 社会の動向や求職者のニーズに沿ったセミナー、合同就職面接会等を実施する。 職業能力の開発を支援する講座を実施する。 					○	★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
相談カウンセリング件数	件	164	137			策定	300
						現在	170
就労支援フェア来場者数	人	297	235			策定	450
						現在	200
就職者数	人	24	25			策定	100
						現在	45
就職支援セミナー受講者数	人	35	41			策定	60
						現在	60
企業説明会・見学会参加者数	人	36	31			策定	50
						現在	50
職業能力開発講座受講者数	人	7	24			策定	40
						現在	40
就労体験者数	人	1	1			策定	10
						現在	10
再就職支援助成金利用者数	人	1	2			策定	15
						現在	5
三島地域若者サポートステーションへの案内	件	1	0			策定	1
						現在	1
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症対策を講じ、セミナー等はオンライン開催や規模を縮小するなどして、実施できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	オンライン開催が難しいセミナー等について、開催規模の縮小等により、参加人数が減少した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍においても、開催規模の縮小やオンラインによる開催等、実施方法を工夫することで、就職サポートにつながったため。
A		
活動目的を達成するための課題	オンライン開催が難しい講座等について、参加態様を検討する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和5年度以降の改善に向けて、オンラインによる開催が難しい講座について、参加態様を検討する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇就労の支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	農林課						
実施事業	事業No.	1404	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	青年就農事業	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	大阪府等と連携し、将来就農を目指す都市住民に対して就農認定を行い、営農相談や補助金交付などの支援を行うことで農業経営の確立をめざします。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに毎年2人の就農認定を目指す。					○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
青年就農認定者数（累計）	人	4	4			策定	10
						現在	4
できたこと(達成したこと)	既に認定を受けている就農者へのサポート体制を確立すると共に、補助金の交付を行った。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新たな認定者の増加には至らなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	就農希望相談はあるが、認定できる農業経営計画が定まっていないため。
B		
活動目的を達成するための課題	新規就農者が土地を取得し、農作物を出荷して生計を立てることが難しい。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、府と連携して、農業経営計画策定をサポートする。
------------------------------------	------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ①交流活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	文化振興課、社会教育振興課						
実施事業	事業No.	1405	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	姉妹・友好都市との青少年交流	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標（社会教育振興課）	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
しょうどしまオーブキャンプ参加者数 (訪問)	人	中止	中止			策定	40
						現在	40
いばらきフレンドリーキャンプ参加者数 (受入)	人	中止	中止			策定	110
						現在	110
活動指標（文化振興課）	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
茨木市国際親善都市協会において、国内外の姉妹都市等に住む子どもたちと、茨木市内小中学校・幼稚園に通う子どもたちが、絵画・書などの作品を交換した。	作品(茨木市から)	中止	53			策定	70
						現在	70
	作品(姉妹都市等から)	中止	89			策定	50
						現在	50
できたこと(達成したこと)	(社会教育振興課) 新型コロナウイルス感染症により中止となったため特になし。 (文化振興課) 令和3年度は姉妹都市との絵画・書の交換が実現した。茨木市ではオンラインで開催された総合展で姉妹都市から送付された作品を展示した。姉妹都市では、茨木市から送付した作品を実地で展示した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	(社会教育振興課) 新型コロナウイルス感染症により中止となったため特になし。 (文化振興課) 特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	(文化振興課) コロナ禍で様々な制限がある中で、国内外の人達と直接的な交流は難しいものの、絵画・書などの作品を交換し、お互いに展示をすることで国際交流に繋がったものであるため。
A		
活動目的を達成するための課題	(文化振興課) 学校等との連携体制も整ってきており、交流活動の地盤ができているため、今後も認知度向上に努め、引き続き事業を継続する。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、新しい生活様式をふまえた交流の方法を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	(文化振興課) 市外及び国外での直接的な人員の交流活動については、コロナ禍が落ち着き、渡航制限や隔離期間、外出自粛等の状況が改善されてから調整をする。絵画・書の交換や、オンラインを活用したミネアポリス市とのミーティング、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニュースレターへ記事の寄稿は今後も継続的に行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ①交流活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	文化振興課						
実 施 事 業	事業No.	1406	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年の国際感覚と英語等の語学力の育成	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	茨木市国際親善都市協会青少年活動室などにおいて、歌やゲームを通して、楽しみながら英語等を学び、子どもの国際感覚と語学力を養成します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	各事業の当日の様子を協会報に写真とともに掲載し、活動内容を周知し、集客を図る。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
「英語で遊ぼう」・「中国語で遊ぼう」延べ参加人数	人	52	71			策定	170
						現在	170
「国際交流の集い」来場人数	人	中止	30			策定	340
						現在	80
できたこと(達成したこと)	「英語で遊ぼう」・「中国語で遊ぼう」・「国際交流の集い」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加人数を制限して開催し、子ども達に楽しみながら多言語・多文化に触れてもらうことができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	「国際交流の集い」を分散型のイベントとして企画していたが、そのうちの一回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず中止となった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍ではあるものの、参加人数を制限して開催し、子供たちに楽しみながら多言語・多文化に触れてもらうことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	各事業でどんなふうに多言語・多文化を楽しむことができるのか、子ども達が参加したいと思えるよう、しっかり内容を周知する必要がある。また、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、新しい生活様式をふまえた多文化共生の方法を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	イベントを安全・安心に開催できるように、定員やスペースに余裕を持たせるため会場や参加人数を考慮する。イベント開催に向けて、広く周知を行い集客を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ①交流活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1407	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	青少年健全育成	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	地域における青少年健全育成活動を推進するため、関係団体事業の活動を支援します。また、青少年が主体的に取り組み自己有用感を高めるためのイベントを実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 青少年健全育成運動重点目標に沿って実施された補助事業の好事例を表彰し、その取組を地域へ発信する「ほっとけん！アワード」を実施する。 青少年イベントの運営スタッフとして、様々な部活・サークルの参加を市内高校・大学に働きかける。 				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
茨木市青少年健全育成運動重点目標に沿って実施された補助事業率	%	39	41			策定	80
						現在	80
青少年イベントに運営スタッフとして参加した青少年（中学生以上）の人数	人	0	91			策定	100
						現在	100
できたこと（達成したこと）	コロナ禍での工夫を凝らした青少年健全育成に係る地域行事の促進。 コロナ禍で中止していた青少年イベントの再開。						
できなかったこと（達成できなかったこと）	コロナ禍においても活動制限がある中、工夫し事業を実施したため、特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	青少年健全育成運動重点目標に沿って実施された補助事業率が若干伸びたほか、青少年イベントを再開し自己有用感を高めるための機会を提供できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	青少年健全育成団体の活性化。様々な高校生等の学業スケジュールに合わせた青少年イベントの日程調整及び会場確保。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き「ほっとけん！アワード」を実施し、青少年団体の行事の好事例や工夫点等を地域に発信し、青少年団体の活動促進を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ②体験活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1408	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	青少年の野外活動	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	野外キャンプなど、子ども同士の連帯感の育成と自然の大切さを感じる心を育むことのできる場を提供するとともに、青少年活動の指導者の育成を行い、子どもの健全育成を支援します。また、学校教育と連携し、より多くの青少年に自然体験ができる機会を増やします。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	引き続き、申請のオンライン化、広報の充実などにより、利用促進を図る。 学齢や目的別に様々な自然体験の機会を提供する。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
青少年野外活動センター 利用者数	人	2,615	4,859			策定	12,000
						現在	12,000
できたこと(達成したこと)	オンライン申請の導入やセンター便りの発行により年間利用者数は増加した。徹底した感染症対策を行い、屋外であることを活かし、コロナ禍でも体験活動の機会を提供した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	緊急事態宣言の発出等により、予定していた一部の主催事業が出来なかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍で「少人数・短期間」の学齢に応じたキャンプを実施したため。
B		
活動目的を達成するための課題	利用促進とプログラムの充実	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	体験活動の意義とその周知に努める。 学齢や目的別のプログラム充実を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ②体験活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	社会教育振興課						
実 施 事 業	事業No.	1409	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	青少年センター行事	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	子ども達に豊かな体験活動の機会を提供するため、上中条青少年センター主催事業として、上中条青少年センターを中心に市の各施設を活用し、土曜日講座・イベントを実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子ども達に興味を持ってもらえるセミナーを大学や関係団体と連携し企画する。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
主催事業数	事業	25	38			策定	50
						現在	50
参加人数	人	319	855			策定	2,000
						現在	2,000
できたこと(達成したこと)	感染対策を徹底した子どもセミナーの実施。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	コロナ禍において、定員の制限等がある中、工夫して実施したため、特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	大学生等と連携して体験活動を実施するとともに、新たな企画を行うことにより子ども達に興味を持ってもらえることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	子どもに興味を持ってもらえるセミナーの企画。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	子どもに関心を持ってもらえるセミナー等を企画・検討するため、大学や関係団体と連携を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	I ライフステージごとの施策（事業）
施策の方向	◇青少年の健全育成 ②体験活動の推進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	スポーツ推進課						
実施事業	事業No.	1410	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	各種スポーツ・レクリエーション活動	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	仲間や参加者とのコミュニケーションを図り、スポーツへの愛着心を育てるため、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会となる行事等を開催します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	地域でのスポーツ活動に対する支援			○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
地区スポーツ・レクリエーション大会の参加者数	人	0	51			策定	33,000
						現在	33,000
できたこと(達成したこと)	玉櫛地区のみ令和3年11月21日にスローイングビンゴを実施。令和2年度と同様に、「既に中止を決定している」又は「今後、中止を決定する」地域行事等であっても、地域行事の再開に向け、新型コロナウイルス感染症対策を講じるための環境整備のための物品購入（フェイスシールド・アクリル板・赤外線温度計・非接触型体温計等）に対して補助金を交付した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地区スポーツ・レクリエーション大会を中止し、開催を取りやめた。（玉櫛地区以外）						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の蔓延下において一地区のみでも開催できたのは令和4年度の地域行事の再開に希望が持て、感染症対策のために購入した物品を令和4年度に行事を行う際にも役立てることができるため。
B		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染症対策を万全とするよう、大会を実施する予定の各公民館区事業実施委員会に促す。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	実施の可否や規模、開催時間は各公民館区事業実施委員会の判断に委ね、新型コロナウイルス感染症対策を万全に行った上での実施を認めている。7月末までにはこれを把握する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ①相談・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課							
実施事業	事業No.	2101	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画	
	事業名	ひとり親家庭の相談・支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	事業内容	ひとり親自立支援員がひとり親家庭等の保護者からの相談について、関係機関と連携を図り対応を行います。また、ひとり親家庭等の保護者に対しては、養育費が確保できるように、啓発及び情報提供を行います。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	相談内容に応じて各種制度の案内に努め、関係機関と連携しながら自立に向けた支援を実施する。 また、公正証書等作成費補助及び養育費保証料補助制度の周知を行う。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ひとり親家庭等の相談件数	件	1,580	1,267			策定	1,200
						現在	1,200
ひとり親のための無料法律相談の件数	件	58	50			策定	60
						現在	60
できたこと(達成したこと)	自立・就労に向け、一人ひとりの状況やニーズに応じた支援を適切に行うことができた。また、養育費が元の配偶者から支払われず、経済的に困窮し、子どもの貧困につながる等の問題が生じている中、公正証書等作成費補助を実施できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談件数は、前年度と比べ19.8%減少したが、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度と比べると31.7%増加し、自立・就労に向け、一人ひとりの状況やニーズに応じた支援を適切に行うことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	ひとり親家庭の親の中には高等学校を卒業していないことから、希望する就業ができないことや安定した就業が難しいなどの支障が生じている。また、児童についても一般世帯に比べ、進学率が低い等の課題がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ひとり親家庭の学び直しを支援することで、より良い条件での就職や転職に向けた可能性を広げ、正規雇用を中心とした就業につなげていくため、高等学校卒業程度認定試験合格のための講座を受講する場合に、その費用の一部助成を検討する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ①相談・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2102	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	ひとり親家庭への情報提供	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	関係課と連携して、ひとり親家庭対象の講座等を実施し、ひとり親家庭に必要な情報提供と啓発を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	児童扶養手当現況届受付時に、ひとり親家庭に必要な情報提供を積極的に行う。			★	★		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ひとり親家庭の施策案内の発行部数	部	300	150			策定	220
						現在	220
できたこと(達成したこと)	「ひとり親家庭の施策案内」の冊子のほか、スマホから市HPの「ひとり親支援施策」のページが確認できるQRコード及び自立支援員の名前を掲載した名刺サイズのカードを作成し関係窓口等に配架することにより、ひとり親家庭に必要な情報提供ができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	「ひとり親家庭の施策案内」のデータ更新が上手くできず、発行時期が遅れたことにより、発行部数が前年度に比べ減となった						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	「ひとり親家庭の施策案内」の冊子の発行部数が減となったが、スマホから市HPの「ひとり親支援施策」のページが確認できるQRコード及び自立支援員の名前を掲載した名刺サイズのカードを作成し関係窓口等に配架することにより、継続した支援体制を整えることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	「ひとり親家庭の施策案内」のデータ更新については改善されているため、特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	情報提供及び啓発については、あらゆる機会を通して実施していく。
------------------------------------	---------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ①相談・情報提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2103	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	ひとり親自立支援員のスキルアップ	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	ひとり親自立支援員のスキルアップのため、大阪府の自立支援員研修への受講を促します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	新たに採用するひとり親支援員には、様々な研修受講を促していく。			★			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
研修受講回数	回	9	9			策定	5
						現在	9
できたこと(達成したこと)	大阪府や関係機関が実施する研修を受講することで、他の受講者との情報交換のほか、ひとり親支援施策に係る最新情報の入手が可能となり、ひとり親自立支援員のスキルアップにつながった。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	研修を受講することで、他の受講者との情報交換のほか、ひとり親支援施策に係る最新情報の入手ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後も、継続して研修を積極的に受講し、スキルアップを図る。
------------------------------------	-------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課							
実施事業	事業No.	2104	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画	
	事業名	ひとり親家庭の保育所の優先入所	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期		
	事業内容	保育所の入所において、ひとり親家庭の受入を優先します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	利用調整指数によってひとり親家庭の受入を優先する。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
優先入所人数	人	122	91			策定	50
						現在	130
できたこと(達成したこと)	ひとり親家庭の優先的な入所案内をすることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	令和2年度より優先入所人数は減少したが、ひとり親家庭の優先的な入所案内をすることはできたため。
B		
活動目的を達成するための課題	家庭の状況に応じて、ひとり親家庭の生活の安定を図れるよう、状況に応じた選考を行う必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	各家庭の状況に応じて、ひとり親家庭の生活の安定を図れるよう、利用調整指数の見直しをしていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学童保育課							
実施事業	事業No.	2105	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	学童保育室の優先入室	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	事業内容	学童保育室において、一斉受付で定員を大幅に超えた場合、ひとり親家庭等の受け入れを優先します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	一斉受付で待機児童が発生した場合、調整指数表を用いて、ひとり親家庭等の受け入れを優先的に行う。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
一斉受付におけるひとり親家庭の待機児童数	人	0	0			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	(一斉受付において待機児童が発生しなかったため、該当事象がなかった。)						
できなかったこと(達成できなかったこと)	(一斉受付において待機児童が発生しなかったため、該当事象がなかった。)						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	待機児童の発生はなく、該当事象がなかったが、事業の重要性等が高いため。
A		
活動目的を達成するための課題	該当事象がないため、特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	一斉受付において待機児童が発生した場合は、ひとり親家庭等の受け入れを優先して行う。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2106	ライフステージ				
	事業名	母子生活支援施設への入所受入	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	母子生活支援施設と連携し、生活困窮者、母子家庭などの保護を行うとともに、入所家庭の自立促進を図ります。					社会的 支援
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	生活困窮者、母子家庭などの保護を行うとともに、入所家庭の自立促進を図る。					★	★

■実施【Do】

<評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)>

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
入所世帯数	世帯	2	1			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	自立の促進に向け、関係機関と連携し、支援が必要となる母子に適切なサービス提供ができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	自立の促進に向け、関係機関と連携し、支援が必要となる母子に適切なサービス提供ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	関係機関と連携を図り、引き続き実施する。
------------------------------------	----------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2107	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	当事者団体への支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	当事者団体の活動内容を充実し、活動の活発化を促進することにより、母子家庭の福祉の向上を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託する。 ひとり親家庭同士の交流やつながりをもつことで早期自立及び生活の安定を図る。			★			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業の交流会開催回数	回	6	6			策定	6
						現在	6
できたこと(達成したこと)	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託して実施することにより、ひとり親家庭の早期自立及び家庭生活の安定を図ることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍において様々な制限がある中、感染予防対策など工夫して活動を実施し、ひとり親家庭同士の交流やつながりをもつことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ひとり親家庭の生活支援(情報交換)事業を母子福祉会へ委託するなど、ひとり親家庭同士の交流やつながりをもつことで早期自立及び生活の安定が図れるよう引き続き支援していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	建築課						
実施事業	事業No.	2108	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	住宅支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	市営住宅の新規募集については、ひとり親世帯・障害者世帯・子育て世帯に対し、必要に応じ入居者募集の優先枠を設けています。また、府営住宅の入居者募集の案内を配布しています。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	毎年度、ひとり親・子育て世帯向けの優先枠を設け、入居者募集を行う。						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
市営住宅新規年間募集回数	回	2	2			策定	2
						現在	2
できたこと(達成したこと)	生活の安定向上と社会福祉の増進に寄与することができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	募集により、支援が必要な世帯の入居につながったため。
A		
活動目的を達成するための課題	新規募集に係る改修に多額の費用が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	年2回の新規募集を行う。
------------------------------------	--------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ②子育て・生活支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課、福祉総合相談課						
実 施 事 業	事業No.	2109	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	学習・生活支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	生活困窮世帯・ひとり親家庭等の中学生を対象に学習支援を実施します。また、生活上の問題や進路選択（進学に要する費用や奨学金など）に関する各種相談に応じます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内6か所で週2回の学習会を実施（継続） ・学習会にて、特にきめ細かい支援を要する生徒への支援ができるよう、人件費を拡充（R3～） 					★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
継続参加率	%	50	56			策定	70
						現在	70
参加人数	人	69	58			策定	
						現在	
できたこと(達成したこと)	<p>中学3年生は全員進路が決定。 参加生徒に対して、学習・生活両面で充実した支援を実施。 児童扶養手当現況時に対象となりそうな児童の保護者に直接案内した。また、中学校の最初の家庭訪問時に担任教師から各家庭に向けて本事業の説明をもらうなど、必要な生徒に本事業がにつながるよう事業周知を行ったことから参加人数が増加した。</p>						
できなかったこと (達成できなかったこと)	<p>令和3年度は、定員100名に対し登録者が58名。会場によっても定員の充足率にばらつきあり。</p>						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	参加生徒に対して、学習・生活両面で充実した支援を実施。一方、登録数が伸び悩み、参加が望まれる生徒に支援が届いていないため。
B		
活動目的を達成するための課題	今後とも対象世帯への利用促進を進める。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	未登録の対象生徒やその家族に対し、継続的な利用勧奨を実施。
------------------------------------	-------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ③就労支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2110	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	資格取得・技能習得のための支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	パソコン等の技能習得のための講座を実施します。また、資格取得、技能習得等のための受講料の一部や、長期訓練中の一定期間の生活費を補助します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	自立支援教育訓練給付金等については、対象資格の拡充や支給経費の増額を行い、ひとり親施策のさらなる充実を図る。					★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給件数(自立支援訓練給付金・高等職業訓練促進給付金等)	件	17	21			策定	15
						現在	15
就業支援講習会等事業の受講者数(介護職員実務者研修)	人	14	11			策定	18
						現在	18
できたこと(達成したこと)	介護実務者研修(子の一時保育有)を実施し、介護保険事業所などで働く上で必要となる基本的な知識や技術を習得し、キャリアアップにつなげることで、ひとり親家庭の自立を促進することができた。 また、児童扶養手当の現況届会場において、ハローワークと連携し就労相談窓口を設置することにより、就労支援の充実を図ることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	上記の取組とあわせて、新型コロナウイルス感染症が長期化する中、自立支援教育訓練給付金等の対象資格の拡充や受講期間の短縮を行い、ひとり親施策のさらなる充実を図ることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、ひとり親家庭の自立促進を目指すため、就労支援講習会の内容の検討を行い、充実を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課						
実 施 事 業	事業No.	2111	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	児童扶養手当	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	子どもの成長やひとり親家庭の生活の安定を支援するため、子どもの養育に関する手当を支給します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	児童扶養手当制度のご案内パンフレットを刷新し、制度の周知に努める。					★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
受給者数（一部支給含む）	人	1,731	1,711			策定	-
						現在	-
全部停止者数	人	291	301			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	受給者数は年々減少しているが、これは児童数の減や所得の増加などによるものと考えられ、支給対象者へのサービスは適切に提供できた。児童扶養手当と障害基礎年金等との併給調整の見直しが行われ、ひとり親家庭の生活の安定につながった。また、新型コロナウイルス感染症が長期化し、より厳しい経済状況になる子育て世帯や、分散登校・家庭保育への協力等の影響を受ける子育て世帯を対象に各種給付金等を支給した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	受給者数は年々減少しているが、これは児童数の減や所得の増加などによるものと考えられ、支給対象者へのサービスは適切に提供できた。児童扶養手当と障害基礎年金等との併給調整の見直しが行われ、ひとり親家庭の生活の安定につながったため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	国・大阪府・市内関係課との連携により手続きの簡素化について検討しつつ、継続実施していく。また、新型コロナウイルスの感染状況を見極めつつ給付金等の支給について検討を行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	こども政策課							
実 施 事 業	事業No.	2112	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	ひとり親家庭の医療費の助成	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期		
	事業内容	ひとり親家庭に属する養育者及び児童にかかる保険診療費の患者負担額の一部を助成します。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	継続して実施する。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
助成件数	件	49,640	53,457			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	児童扶養手当の受給者数と連動し、助成件数は年々減少しているが、助成対象者へのサービスは適切に提供できた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	児童扶養手当の受給者数と連動し、助成件数は年々減少しているが、助成対象者へのサービスは適切に提供できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	継続して実施する。
------------------------------------	-----------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課							
実施事業	事業No.	2113	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	ひとり親家庭への福祉資金の貸付	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期		
	事業内容	ひとり親家庭の経済的自立の助成と生活意欲の助長を図るため、ひとり親自立支援員が貸付相談を実施します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	より効果的な制度の周知方法を検討し、継続して実施する。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
貸付件数	件	22	6			策定	20
						現在	5
できたこと(達成したこと)	生活資金や修学資金を貸し付けることにより、ひとり親家庭の経済的自立等を図ることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	生活資金や修学資金を貸し付けることにより、ひとり親家庭の経済的自立等を図ることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	制度のさらなる周知に努める必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	より効果的な制度の周知方法を検討し、継続して実施する。
------------------------------------	-----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇ひとり親家庭への支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	2114	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	特別割引制度の周知	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	児童扶養手当の支給を受けている世帯に対し、JR通勤定期乗車券等の割引制度の周知に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	児童扶養手当の支給を受けている世帯に対し、JR通勤定期乗車券等の割引制度の周知に努める。			★	★		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
交付件数	件	376	260			策定	300
						現在	300
できたこと(達成したこと)	JR通勤定期乗車券等の割引制度を実施することにより、ひとり親家庭の経済的負担を軽減することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	JR通勤定期乗車券等の割引制度を実施することにより、ひとり親家庭の経済的負担を軽減することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	制度のさらなる周知に努める必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	働き方改革等の影響等により交付件数は減少傾向にあるが、より効果的な制度の周知方法を検討し、継続して実施する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	2201	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	すくすく親子教室の運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	1歳8か月児健康診査後、療育を必要とする主に2歳児の乳幼児や3歳半～5歳の乳幼児が、日常生活における基本的な動作を習得し、集団生活へ適応することができるよう、適切な相談・指導・援助を行います。また、初期療育機関として保護者の気づきを適切に支援し、関係機関とも連携を図りながら、切れ目のない支援に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 母子包括推進課との連携を図り、親子ひろばからスムーズに早期療育へつなぐ。 一人ひとりの子どもの特性等保護者と共通認識を持つと共に適切な指導や助言、支援を提供していく。 						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
児童発達支援事業利用児数 (延べ)療育発達相談件数	人	3,444	3,595			策定	5,200
						現在	3,595
	件	147	207			策定	170
						現在	207
できたこと(達成したこと)	母子包括推進課との連携を密にとることから健診後、親子ひろばからすくすく親子教室への案内がスムーズで早期療育支援へ導くことができた。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	親子ひろばの参加希望は増えたが、コロナ渦の中での対応もあり、次の予約までの期間があくなど保護者のニーズに合わせた案内の難しさがあった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ渦の中、感染対策を講じながらできることを職員間で考えながら事業を止めずに運営・実施することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	適切な保護者支援、子どもへのアプローチの仕方など職員のスキルアップを構築していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	講師を招いての研修会を実施していく。また、療育内容等職員間での共通認識をしていながら支援のありかたを学び、人材育成につなげていく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	2202	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	児童発達支援センター(あけぼの学園)の運営	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	日常生活に必要な療育支援サービスや地域支援サービスを提供し、子どもの健全な発達を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに市域における児童発達支援のあり方について、円滑な運用が可能となるよう検討する。令和5年度中に地域相談支援のあり方について、利便性の向上を検討する。			○	○	○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
通所支援利用児数(延べ)	人	12,414	11,344			策定	12,500
						現在	12,500
地域支援相談件数	件	2,770	2,519			策定	3,000
						現在	3,000
できたこと(達成したこと)	公立幼稚園指導主事を講師に迎え、就学までの幼稚園等での園児の様子が把握できる研修を実施し、職員の理解を深めた。また、相談支援経験者を管理職に置き児童発達支援の現場にフィードバックできる体制を構築した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、休園や自宅待機者が発生し支援が提供できない期間があった。保護者参加の行事等についても人数制限を行うなどしての実施となり園児や保護者のニーズに沿えなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍にあっても、職員同士で工夫しできることを実践し、年間を通して園の運営が可能であったが、相談業務は接触を避ける観点から件数が減ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	入園児のみならず、地域で支援が必要な子どもやその保護者に対して、適切に支援をコーディネートできる職員の育成が望まれる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	相談や支援のあり方、地域資源の把握などができる人材を令和6年度までに育成し、相談件数の増加や、支援内容の多様化に対応する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	2203	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	医療型児童発達支援センターでの機能訓練、 医療的ケア等の専門的な療育の実施	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	医療型児童発達支援センターでは、医療的ケアの必要な児童や発達に課題のある児童等を対象に機能訓練や専門的な療育を行い、支援に努めます。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度の高い児童の受入れを行う。 ・事業の実践を生かした地域への支援のため、医療的ケア児コーディネーターを配置する。 					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
医療型児童発達支援センター利用者数	人	3,954	3,363			策定	増加
						現在	維持
うち要医療行為対象児童利用者数	人	800	419			策定	微増
						現在	維持
できたこと(達成したこと)	医療の必要な児童に対し、専門的な療育を提供するとともに、医療的ケア児コーディネーターを配置し、地域への支援の基盤づくりを実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数の減少が見られた。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	計画について、一定の取り組みが実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療依存度の高い児童の受入促進。 ・医療的ケア児コーディネーターによる地域の関係機関等への支援。 	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	医療依存度の高い児童の受入れを進めるとともに、医療的ケア児コーディネーターを活用し、実践を生かした地域への支援を実施していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ①適切な療育・保育の提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園総務課						
実施事業	事業No.	2204	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	障害児保育	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	障害児保育の充実に向けて、人的・物的な環境整備を図るとともに、心理判定員の保育所等への定期的な巡回に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育や人権保育研修を実施し、職員の知識と技能の向上を図る。 ・心理士の巡回を実施し、相談・支援を行う。 					★	

■実施【Do】

<評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)>

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
心理士による延べ巡回日数	回	737	750			策定	810
						現在	810
できたこと(達成したこと)	巡回対象者の増加に対応するため、事務の効率化を図る必要から報告様式の統一化を行った。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	巡回対象者の増加により、巡回日程の調整が難しく、十分な対応が出来なかったケースがあった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	様式を見直す等効率化を図り、心理士による巡回支援を行ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	対象とする施設・児童が増加しており、心理士の体制を見直す必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後の対象者増加に対応できるよう、次年度に向け、必要な体制を構築する。
------------------------------------	-------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	2205	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	支援教育	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	障害のある児童・生徒一人ひとりが、地域の学校で地域の子どもたちと共に学ぶことを通して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服することができるよう、必要な支援や介助を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	年度を通じて人材の確保に努め、障害のある児童・生徒の教育的ニーズを把握した上で介助員の配置要綱に基づき適切な配置を行う。 医療的ケアを要する児童生徒の在籍する支援学級に看護師を医療介助員として配置する。						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
配置要綱に基づき、介助員を支援学級に配置	人	小 82 中 23	小 82 中 24			策定	小 82 中 24
						現在	小 81 中 24
医療的ケアを要する児童生徒の在籍する支援学級に看護師を介助員として配置	人	小 11 中 2	小 15 中 3			策定	小 12 中 2
						現在	小 17 中 2
できたこと(達成したこと)	医療的ケアを必要とする児童生徒に対して、看護師資格を有する医療介助員を全校に配置することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	重度重複障害のある児童生徒に対して、より充実した介助員・医療介助員の配置や研修を進めていきたい。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	重度重複障害のある医療的ケアを必要とする児童生徒へは医療介助員の確保に努めたことから複数名配置を実現することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	就学相談等で、学びの場や合理的配慮、指導・支援等について保護者との合意形成をはかる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	就学相談ガイダンスの実施、早期からの個別に対応した就学相談の実施。保護者と教職員が特別の教育課程・自立活動について相談し、児童生徒が最も伸長する学びの場を選択できるようにする。また、児童生徒への支援について、個々の教育的ニーズを踏まえて、介助員の採用面接の精度向上・適切な配置を行えるようにする。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	教育センター						
実施事業	事業No.	2206	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	幼児に対することばの相談	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	ことばの遅れ、吃音、言語障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	ことばの遅れ、吃音、構音障害などことばの問題についての相談・指導を実施します。			★			★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
ことばの教室相談・指導の実施	件	135	150			策定	130
						現在	150
	回	757	678			策定	750
						現在	700
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児への発音指導等適切な指導支援の実施。 ・感染防止対策の徹底。 						
できなかったこと(達成できなかったこと)	年度途中の欠員による相談体制の維持。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談件数は令和6年(目標)を上回り、幼児への発音指導等適切な指導支援の実施ができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	新しい相談員の確保と申し込み方法や相談体制の改善。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年4月より、相談枠の拡充や申し込みのオンライン化等に取り組む。
------------------------------------	------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学童保育課						
実施事業	事業No.	2207	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	学童保育室での障害のある児童の受入	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	学童保育室の入室を希望する児童に障害があった場合のため、人員・設備の充実等に努め、可能な限り受入を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	入室受付に必要な支援の把握に努め、児童の障害の程度等、個々の状況に応じ、設備等の設置や改修、指導員の配置を行い、受入する。			★			

■実施【Do】

<評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)>

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
障害児の入室児童数	人	34	33			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	学童保育室において、すべての障害のある児童の受け入れを実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	すべての障害のある児童の受け入れを行うことができたため、達成できている。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	すべての障害のある児童の受け入れを行うことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	障害のある児童の受け入れ体制を充実させる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	児童の障害の程度や発達状況等、個々の状況に応じた支援を行うため、指導員配置や設備の改修等を行う。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ②ともに学び育つ教育の提供や障害に対する理解の促進

■計画【Plan】／実施事業

担当課	障害福祉課						
実施事業	事業No.	2208	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	理解促進研修・啓発	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期		青年・若者期
	事業内容	障害を理由とする差別の解消や合理的配慮の提供等について、市民や事業者が理解を深めるための研修会やイベント、啓発活動などを実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 「障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例」について、啓発用冊子を作成し、配布を実施する。 障害理解促進事業について、周知・啓発等を図り、障害の理解が深まる研修等の実施促進を図る。 					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
理解促進研修・啓発事業	有無	有	有			策定	有
						現在	有
できたこと(達成したこと)	「障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例」について、中学生版リーフレットを作成し、中学校2年生に配布を実施した。また、障害理解促進事業について、障害をテーマとした研修会等の実施を促進することを目的に、講師リストを作成した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	講師リストについて、事業者等への周知啓発ができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	「障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例」中学生版リーフレットについて、学生により伝わりやすい表現やイラスト等に修正し、配布し、啓発ができた。また、講師リストについて、作成が完了し、令和4年度の周知等に向けて準備が整ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	障害に対する理解を深めるために、市民や事業者等に、「障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例」や障害理解促進事業について、多くの人に関心を持ってもらえる啓発の手法を検討すること。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和3年度に作成が完了した講師リストについて、令和4年度中に、事業者等に周知啓発をし、障害の理解が深まる研修実施の促進を図る。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ③障害福祉サービスの提供

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	2209	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	障害児通所支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	事業内容	就学前児童には児童発達支援、就学児童には放課後等デイサービスに係る通所給付決定を行います。また、障害者や家族等からの相談に応じ、障害の状況やサービスの利用意向、家族の状況などを踏まえて適切なサービスの支給決定が行えるよう、相談支援・情報提供体制を充実します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 市内事業所のサービスの質の維持、向上を図る。 支給決定に係る基準について、他市の状況を踏まえ、研究を進める。 					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
児童発達支援利用者数	人	524	573			策定	緩やかに増
						現在	緩やかに増
医療型児童発達支援利用者数	人	71	68			策定	緩やかに増
						現在	緩やかに増
放課後等デイサービス利用者数	人	832	920			策定	緩やかに増
						現在	緩やかに増
保育所等訪問利用者数	人	75	93			策定	緩やかに増
						現在	緩やかに増
居宅訪問型児童発達支援	人	3	4			策定	緩やかに増
						現在	緩やかに増
障害児相談支援利用者数	人	280	268			策定	緩やかに増
						現在	緩やかに増
できたこと(達成したこと)	事業所や市ケースワーカー等の、きめ細やかな聞き取り等により、サービスが適切に提供された。また、他市の状況について照会を実施した。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	相談支援専門員の不足により、障害児相談支援の利用者数はやや減少している。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	概ね安定的に事業を実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題	全国的な基準がないため、自治体間で適切な支給に係る考え方に差異がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	市内事業所のサービスの質の維持、向上を図るため、事業所連絡会も活用し、繋がりを強化していく。 支給決定に係る基準について、他市の状況を踏まえ検討を進めていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ③障害福祉サービスの提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	障害福祉課						
実施事業	事業No.	2210	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	自立支援・地域生活支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	自立支援給付、もしくは地域生活支援事業などの障害福祉サービスを提供し、障害児の日常生活の安定や家族の介助・介護負担の軽減を図ります。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	支給決定基準を踏まえながら、利用者に応じたサービスが公平かつ適切に提供されるよう取り組む。				★		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標		単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
サービス利用者数 (18歳未満) 自立支援給付	居宅介護	人	48	47			策定	微増
							現在	微増
	短期入所	人	235	211			策定	増加
							現在	増加
	同行援護	人	1	0			策定	微増
							現在	微増
地域生活支援事業	移動支援	人	203	186			策定	増加
							現在	増加
	日帰りショート ステイ	人	266	259			策定	増加
							現在	増加
できたこと(達成したこと)		事業所や市ケースワーカー等による状況の聞き取り等により、サービスが概ね適切に提供された。						
できなかったこと (達成できなかったこと)		相談支援を利用していない場合、サービス提供状況の把握(モニタリング)に時間を要したり、十分ではないことがある。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	概ね安定的に事業を実施できたため。
B		
活動目的を達成するための課題		事業所のモニタリングや関係機関の連携機能の活用。

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き事業所や関係機関と連携のもと、個々の利用状況を効率的に把握し、適切なサービス提供につなげていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ③障害福祉サービスの提供

■計画【Plan】／実施事業

担当課	障害福祉課						
実施事業	事業No.	2211	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	障害特性に応じた適切な相談支援・情報提供体制の実施	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	聴覚障害児・者やその家族からの相談に応じ、障害の状況やサービスの利用意向、家族の状況などを踏まえて適切なサービスの支給決定が行われる、相談支援・情報提供体制を充実します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	多様化する相談内容に対応できるよう、研修への参加を積極的に行い知識の習得に努めるとともに、遠隔手話通訳等の活用により聴覚障害児・者の相談支援体制の充実を図る。			★			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
登録者数	人	36	37			策定	50
						現在	50
利用回数	回	147	122			策定	200
						現在	200
できたこと(達成したこと)	聴覚障害児・者への相談支援体制の充実のため、平成29年度からタブレット端末を導入し、遠隔手話通訳、電話リレーサービスを行っている。令和3年度7月から総務省の電話リレーサービスが開始されたが、市のサービスの継続・拡大を求める声も多くサービスを継続している。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	利用回数減ではあるが、総務省の電話リレーサービスが開始されてもなお、需要が高い。また、「行かなくてもいい市役所」の実現ができる体制が取れているため。
A		
活動目的を達成するための課題	コロナ感染時等緊急時の利用を含めた利用方法を検討していく必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	今後は、多様化する相談に対応できるよう研修への参加を積極的に行う。また、病院や企業へのタブレット端末等の導入を呼びかける等啓発を行い、遠隔手話等聴覚障害児・者の利便性の向上を図る。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	障害福祉課						
実施事業	事業No.	2212	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	特別児童扶養手当	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	中程度以上の身体障害児（20歳未満）・知的障害児（20歳未満）を監護・養育している養育者に手当を支給します。					
計画内容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	制度を利用できる家庭に確実に支援が行き届くよう、今後も本制度の更なる利用促進のため、窓口等での周知活動を継続していく。			★			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
受給者数	人	699	693			策定	719
						現在	693
できたこと(達成したこと)	障害のある子どもを養育する家庭への経済的支援という役割を果たすことができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	受給者の増加に至らなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	受給者の増加には至らなかったが、障害のある子どもを養育する家庭への経済的支援という役割を果たすことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	本制度の更なる利用促進のための周知活動を継続する必要性有り。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	オンライン化等、手続における利便性を高めるよう努める。
------------------------------------	-----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇障害児の健やかな育ちの支援 ④経済的支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学務課						
実施事業	事業No.	2213	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	支援学級等就学奨励	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	支援学級等に在籍している児童・生徒の保護者に対して学用品費等を支給します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・援助費を適正に支給し、保護者の経済的負担を軽減し、支援教育の振興を図る。 ・支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、制度の周知に努める。 				○	★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
支給決定児童生徒数	人	1,023	1,093			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	保護者が申請しやすくなるよう、申請書の記入例を一部変更した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	援助費を適正に支給することで、保護者の経済的負担を軽減しているため。
A		
活動目的を達成するための課題	引き続き、適正に支給していく。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	支援が必要な方が申請にたどりつけるよう、引き続き周知に努める。申請方法について、定期的に振り返り、改善を検討する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇児童虐待防止対策の強化

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課							
実 施 事 業	事業No.	2301	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	児童虐待防止活動の強化と適切な支援の実施	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	事業内容	「オレンジリボンキャンペーン」等を通して、啓発活動を引き続き実施し、地域での見守り活動の推進を図り、児童虐待の未然防止・早期発見に努めます。また、児童虐待に至ってしまった親子に対し、子どもへの関わり方等の相談を受け、関係機関と十分に連携し、子育てへの不安感・負担感の軽減を図ります。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	市内公共施設にオレンジリボンツリーを設置し、市民参加型の啓発活動を実施する。 市民に対し、児童虐待とその通告に対する理解を促進することに努め、児童相談所全国共通ダイヤル（189）等の周知を行う。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
啓発イベント回数	回	1	-			策定	-
						現在	継続
啓発グッズの配布数	個	6,000	-			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、啓発グッズの配布を取り止めた。代替事業として、市内走行バスの車両側面及び扉横シートに児童虐待等予防啓発の広告を掲出し、啓発活動を実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	全体の通告件数は増加しているが、通告をためらう市民も依然いると思われる。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	市内一円を走行するバスに啓発広告を掲出したことで、これまでよりも長期間・広範囲に児童虐待予防について周知することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	啓発活動を実施していることについて市民の認知度の低さ。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	例年11月の児童虐待防止推進月間までに、広報紙やSNSを活用し、事業活動の認知度をあげつつ、市民の関心を高める。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇児童虐待防止対策の強化

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	人権・男女共生課							
実 施 事 業	事業No.	2302	ライフステージ					
	事業名	面前DVの防止及び被害者の支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	社会的 支援 ・ ワーク・ ライフ ・ バランス	貧困 計画
	事業内容	心理的児童虐待にあたる面前DVの防止に努めるとともに、被害者・被害児童が安心して暮らせるよう支援します。						
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	心理的児童虐待にあたる面前DVの防止に努めるとともに、被害者・被害児童が安心して暮らせるよう支援します。						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
DVに関する相談件数	件	914	872			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	面前DVに関する支援や防止に向けた啓発するとともに、関係機関と連携した支援を行った。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	若い方に必要な情報を届け、支援につなげるという点について課題がある。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	相談者のニーズに応じて情報提供や支援を行ったため。
B		
活動目的を達成するための課題	若い方を行政につなぐため、周知方法を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、DVに関する相談を行うとともに、面前DVに関する支援や防止に向けた啓発を実施する。各関係機関との連携を深め、多角的な相談支援を行っていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅱ 社会的な支援が必要な子ども・家庭が安心できる環境づくり
施策の方向	◇外国人や社会的養護にある児童など配慮が必要な子ども・家庭への支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課							
実施事業	事業No.	2401	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画	
	事業名	帰国・渡日の児童・生徒への支援	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	事業内容	帰国・渡日の児童・生徒が習得している貴重な文化体験、母語を生かし、社会で生きる力を育むための学級を開講するとともに、日本語の理解が困難な児童・生徒に授業通訳を派遣します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室を自身が開催 ・授業通訳を派遣 ・事業に対する周知 						★	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
適応指導教室実施状況 授業通訳利用回数 通訳を受けている児童・生徒数	回	274	479			策定	300
	人	8	9			現在	479
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室を定期的開催し、子どもたちのサポートを行うことができた ・それぞれの言語に対応して、授業通訳を派遣できた。 						
できなかったこと (達成できなかったこと)	言語が多様化し、通訳者を探すのに時間がかかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	帰国・渡日の児童生徒に対して支援をすることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	支援が必要な児童生徒に支援を行えるようにする。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	学期ごとに事業の内容がより具体的に伝わるよう周知する。
------------------------------------	-----------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ①企業への啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	契約検査課						
実施事業	事業No.	3101	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	子育て支援の取組等を事業者評価の基準とする制度の推進	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	雇用者向けの子育て支援の取組等を入札などにおける事業者評価基準の一つとする制度を推進します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	令和4年度以降の総合評価の評価基準に項目を1つ以上設けます。						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子育て支援の取組等を事業者評価の基準とする制度の推進	件	-	2			策定	-
						現在	2
できたこと(達成したこと)	令和3年度実績の総合評価の案件における評価項目に、ワーク・ライフバランスの取組について評価できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	ワーク・ライフバランスへの取組について、認定企業の参加が少なかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	ワーク・ライフバランスへの取組を総合評価一般競争入札の評価基準に採用したため。
B		
活動目的を達成するための課題	総合評価一般競争入札の評価基準の見直し。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	入札結果、担当課の施策、社会情勢等により、評価項目・評価等の見直しを行う。
------------------------------------	---------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ①企業への啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	商工労政課							
実施事業	事業No.	3102	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス ★	貧困計画
	事業名	雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期		
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 市内企業を対象とした人権問題に関する研修会を実施する。 労働法令等をわかりやすく解説するセミナーを実施する。 広報誌、ホームページ等を活用し、労働関係法令等の啓発を行う。 就職差別撤廃月間(6月)に街頭啓発キャンペーンを実施する。 							

■実施【Do】

〈評価 A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
研修会・セミナー受講者数	人	50	75			策定	190
						現在	190
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症対策を講じ、研修会等は開催規模を縮小して、実施できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、街頭啓発キャンペーンを中止した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の影響により、キャンペーンは中止しなかったが、その他の研修会等は感染防止対策を講じて実施することで、就職サポートができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	法制度の改正等に即し、時期を逸さないようカリキュラムを編成し、研修会を開催する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	法改正等の動向や社会の動向を注視し、研修カリキュラムに反映させていく。
------------------------------------	-------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ②家庭への啓発や支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	3103	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	男女共同参画に関する啓発	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	家庭生活への男女の共同参画を促進するため、男女共同参画に関する啓発や講座を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	家庭生活への男女の共同参画を促進するため、男女共同参画に関する啓発や講座を実施します。						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
男女共同参画に関する各種講座の参加人数	人	1,673	3,402			策定	9,000
						現在	9,000
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、オンラインによる講演会などを開催し、多くの方に視聴いただいた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ対策として開催形態を変更したり、定員を削減したりした場合はあった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	感染症対策を実施したうえでの対面の講座とオンライン講座を組み合わせ実施し、コロナ禍においても必要な啓発や情報発信ができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	オンラインやワークショップなど、内容や対象によって効果的に啓発できる方法を組み合わせながら実施する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	講座だけではなく申込についてもオンライン化を進めて利便性を図り、これまで参加できなかった層への訴求を図る。また、対面のほうが効果的な内容については、感染対策を行って、引き続き取り組んでいく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ②家庭への啓発や支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	3104	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画	
	事業名	父親対象の子育て支援講座	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	父親の育児参加を促進するために、父親と子どもが遊びを通してふれあう機会の提供や、育児や家事の知識や技術を身につける講座を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	父親の育児参加を促進するために、父親と子どもが遊びを通してふれあう機会の提供や、育児や家事の知識や技術を身につける講座を実施します。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する講座の開催回数と参加人数	回	7	11			策定	10
						現在	10
	人	416	128			策定	100
						現在	100
できたこと(達成したこと)	コロナ禍ではあったが、感染防止対策を講じながら、講座を開催することができた。また、オンライン申込を取り入れ利便性を図った。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、従来の定員・内容での実施ができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	日々の生活に取り入れて実践できる取組みを紹介し、参加者の満足度が高かったため。
B		
活動目的を達成するための課題	新規参加者を増やすため、広報を工夫する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	オンライン化を進めるとともに、対面のほうが効果的なものについては、感染対策を行って引き続き取り組んでいく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇意識啓発 ②家庭への啓発や支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課							
実施事業	事業No.	3105	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ・バランス ★	貧困計画	
	事業名	女性の就労支援	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期			青年・若者期
	事業内容	女性の職場復帰や再就職を支援します。						
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	関係課と連携しながら、多様なライフスタイルを念頭においた女性の就労を支援する講座やセミナーを開催する。							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
女性活躍推進講座参加者数	人	15	10			策定	300
						現在	300
できたこと(達成したこと)	Zoom を用いたオンライン講座を開催し、子どものいる方も自宅から参加することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍の影響を受け、座談会形式への参加者が少なかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	参加者が少なく、より多くの人に情報を届けることができなかったため。
C		
活動目的を達成するための課題	ニーズを把握して企画を見直すとともに、広報を工夫する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	ターゲットにあったテーマ設定や開催方法を検討する。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇職場環境の改善に向けた支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	商工労政課						
実施事業	事業No.	3201	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	働きやすい職場づくりの推進	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	勤労者の福祉の向上を図るため、ワーク・ライフ・バランスの推進や両立支援など働きやすい職場づくりに取り組む事業主に対する支援を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場づくりに取り組む事業所の認定制度を実施する。 広報誌・ホームページ等で制度周知や認定事業者の紹介を行う。 						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
働きやすい職場づくり認定事業所数	事業所	5	9			策定	10
						現在	10
できたこと(達成したこと)	広報誌・ホームページ等で制度について周知し、働きやすい職場づくり推進事業所認定事業所を新たに9社増加することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	認定制度のインセンティブが整備できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	広報誌・ホームページ等を活用した制度周知等により、認定事業所を増やすことができたが、制度のインセンティブを整備できなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	認定事業所の効果的なインセンティブ等を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度以降、認定事業所の紹介を充実させる等、効果的なインセンティブを検討する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	Ⅲ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現できる環境づくり
施策の方向	◇職場環境の改善に向けた支援

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人事課						
実施事業	事業No.	3202	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ・バランス 貧困計画
	事業名	特定事業主行動計画(第4期)の運用	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	仕事と子育ての両立モデル職場となるよう、具体的な実施概要については、令和元(2019)年度に策定する、茨木市特定事業主行動計画(第4期)において、令和2(2020)年度から令和6(2024)年度までの5年間で取り組みます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	新たに改定した茨木市特定事業主行動計画の第4期計画を計画的に推進し、目標達成を図る。					★	

■実施【Do】

〈評価 A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
月平均の時間外勤務数	時間	14.87	16.41			策定	16.49
						現在	16.49
年休取得促進(年平均)	日	12.8	12.2			策定	12.0
						現在	12.0
男性の育児休業取得促進	%	18.2	22.2			策定	10.0
						現在	10.0
できたこと(達成したこと)	すべての項目について目標値を達成した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	目標値を達成したため。
A		
活動目的を達成するための課題	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の育児休業取得率は、年によって実績値の変動が大きく、安定的に率を伸ばしていく必要がある。 ・時間外勤務については、目標値は達成したものの、コロナ対応により前年度よりも増加する結果となった。災害時においては、全庁的な応援体制構築等により特定職員に負担が集中しないようにする等の配慮を要する。 	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	茨木市特定事業主行動計画の第4期計画の各取組みを計画的に進める。
------------------------------------	----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇子どもを産む・育てるための意識啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課、子育て支援課						
実施事業	事業No.	4101	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	児童福祉週間（5月5日～11日）の普及啓発	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	児童福祉の理念の一層の周知と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図るため、児童福祉週間の期間中に、ポスター等による広報活動や子育てに関する相談窓口を身近に感じてもらえるような取組を推進します。					
計画内容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	令和6年度までに、より多くの市民に対し啓発を行う。		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
広報誌による周知	回	1	1			策定	1
						現在	1
できたこと(達成したこと)	広報誌へ掲載し、市民への周知に努めた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	広報誌掲載以外の方法での周知ができず、より多くの市民への啓発ができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	児童福祉週間は、まだまだ多くの市民へ周知がされていないため。
C		
活動目的を達成するための課題	広報誌掲載はしているが、市民にとって身近なものになっていない。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	多くの市民に児童福祉週間を知ってもらうため、効果的な周知方法を検討しつつ、啓発を継続していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇子どもを産む・育てるための意識啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課、人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	4102	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	子どもの権利に関する啓発・普及	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	パンフレット・学習会の開催等を通じ、児童を含めた幅広い世代に向け「児童の権利に関する条約」の啓発・普及を実施します。また、SNSなどの周知方法も加え、より多くの市民に周知していきます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに、より多くの市民に対し啓発を行う。		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標(子育て支援課)	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
児童の権利に関する条約の周知		-	-			策定	継続
						現在	継続
できたこと(達成したこと)	子育てハンドブックへの掲載や、子育て支援総合センターでのポスター掲示により、市民への周知に努めた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	上記以外の方法での周知ができず、より多くの市民への啓発ができなかった。						
活動指標(人権・男女共生課)	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子どもの権利について記載したカレンダーの作成・配布数	部	7,400	7,400			策定	7,400
						現在	7,400
できたこと(達成したこと)	内容を見直し、デザインを工夫するとともに、小学生にはリーフレットを作成し配布した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	(人権・男女共生課) 内容やデザインを見直し、小、中学生に配布するとともに、各教室に掲示してもらい、人権課題に気づききっかけとなる情報を提供することができたため。
B		(子育て支援課) 多くの市民に認知されているとは言えないため。
活動目的を達成するための課題		(人権・男女共生課) 引き続き用語や掲載情報について見直していく必要がある。 (子育て支援課) 掲載・掲示以外の周知方法を検討する必要がある。

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	(人権・男女共生課) わかりやすい表現を意識するとともに、必要に応じて新しいテーマを取り入れた情報内容とする。 (子育て支援課) SNSなどの周知方法を加え、より多くの市民への周知するとともに、子ども自身の働きかけを検討し、子どもへの自覚を促す仕組みづくりを検討する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇子どもを産む・育てるための意識啓発

■計画【Plan】／実施事業

担当課	市民生活相談課						
実施事業	事業No.	4103	ライフステージ				社会的支援 ・ワーク・ライフ バランス 貧困計画
	事業名	次なる茨木ミーティング (旧：次代を担う若者世代との未来ミーティング)	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	若者世代が市政に関する意見を発言できる場を設け、理解や関心を深めてもらうとともに、若者世代の意見を市政にいかしていきます。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	手法を工夫しながら、引続きミーティングを実施する。				○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
次なる茨木ミーティング開催回数	回	1	3			策定	3
						現在	3
できたこと(達成したこと)	市政への理解や関心を深めてもらうことができた。また、高校生からの提案を実現することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	より活発に意見を聴取できるよう、実施方法、テーマ設定を工夫する必要がある。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	市長と直接意見交換することにより、市政への理解や関心を深めてもらうことができ、また、若者世代の意見を市政にいかすことができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	活発な意見交換ができるよう工夫するとともに、参加者には市政への参画を実感してもらう必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	若者世代にとって関心の高いテーマを選ぶとともに、テーマ担当課と連携し、ミーティングで出された提案の実現に努めていく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	福祉総合相談課						
実施事業	事業No.	4201	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	包括的支援体制の推進	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	住民がより身近な地域で相談できるように、コミュニティソーシャルワーカー、障害者相談支援センター、地域包括支援センターを14のエリアごとに整備するとともに、圏域ごとにエリアをとりまとめる地区保健福祉センターを整備します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和5年度までに地域包括支援センターを14エリアに設置。現在12か所設置済。R4:2か所増設予定。 地区保健福祉センターを5圏域に設置。 現在1か所(東)設置済。R4:2か所(西、南)、R5:1か所(中央)、R6以降:1か所(北)設置予定。				○	○	★

■実施【Do】

〈評価 A:活動による成果が高い(優) B:活動による成果がやや高い(良) C:活動による成果が低い(可) -:活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
地域包括支援センター	か所	11	12			策定	14
						現在	14
いきいきネット相談支援センター	か所	14	14			策定	14
						現在	14
障害者相談支援センター	か所	10	10			策定	14
						現在	10
地区保健福祉センター	か所	0	1			策定	5
						現在	5
できたこと(達成したこと)	地域包括支援センター、地区保健福祉センターを計画通り設置できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	計画通りに包括的支援体制が推進されているため。
A		
活動目的を達成するための課題	北保健福祉センターの設置場所が未定であるため、設置場所を確定させ、設置準備を行う。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	さらに包括的支援体制を推進するため、計画に沿った、地域包括支援センター、地区保健福祉センターを設置していく。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	子育て支援課					
実施事業	事業No.	4202	ライフステージ			
	事業名	子育て支援団体のネットワーク化	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期
	事業内容	子育て支援総合センター及び公立保育所を中心に、地域における子育て支援活動団体等のネットワーク化を推進します。				
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	身近な地域で子育てを支えるため、地域子育て団体と連携を図り、地域ごとの子育て支援マップを作成するなど、地域情報の共有・発信と団体間の交流を図る。			○		★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
連絡会開催回数	回	0	0			策定	20
						現在	20
できたこと(達成したこと)	新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での会議等を開催することができず、地域ごとの通信紙を発行し、情報交換と交流を図った。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での会議等を開催することができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	地域ごとの通信紙を発行し、情報交換と交流を図ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での会議等を開催することができなかったため。
C		
活動目的を達成するための課題	オンライン等を活用した情報共有や交流を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	オンライン等を活用した情報共有や交流を検討する。
------------------------------------	--------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	4203	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	子育てサークル・グループ支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	保護者等で構成される子育てサークルやグループ及び各種子育て支援団体等を対象に、子育てサポーターの派遣やおもちゃの貸し出し等を行います。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 貸し出しを希望するグループや個人に対し、おもちゃを貸し出す。 派遣を希望するグループに対し、子育てサポーターを派遣する。 						○

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
サポーター派遣件数	件	32	19			策定	60
						現在	20
おもちゃの貸出件数	件	18	61			策定	100
						現在	65
できたこと(達成したこと)	コロナ禍に対応するため、グループだけでなく個人にもおもちゃの貸出を実施し、前年度に比べて貸出件数が増加した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	イベント等の開催の中止が多く、サポーター派遣依頼件数が減少している。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	おもちゃの貸出、サポーターの派遣について、すべての依頼に対応することができ、おもちゃの貸出については、前年度に比べ貸出件数が増加したため。
A		
活動目的を達成するための課題	コロナ禍でも対応できるような、サークル支援の在り方について検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	コロナ禍でも対応できるような、サークル支援の在り方について検討する。
------------------------------------	------------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	子育て支援課						
実 施 事 業	事業No.	4204	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	子育て支援の人材育成	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	地域における子育て支援活動の活性化を図るために、それぞれの特徴に合わせた人材を育成する研修を実施します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子育て支援に携わる方を対象に、スキルアップを図ることができるよう内容の件数を実施する。 コロナ禍に対応して、オンラインでの研修を取り入れる。		○				

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
地域子育て支援者研修実施回数	回	21	21			策定	継続
						現在	継続
参加者数	人	532	460			策定	継続
						現在	継続
できたこと(達成したこと)	子育て支援に必要な情報を幅広く、支援者に伝えることができ、オンラインも取り入れ、コロナ禍であっても参加しやすい環境を整えた。 また、つどいの広場などでオンラインを用いたコンテンツを行うことができるよう、オンラインの活用研修を実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	子育て支援に必要な情報を幅広く、支援者に伝えることができ、オンラインも取り入れ、コロナ禍であっても参加しやすい環境を整えるとともに、つどいの広場などでオンラインを用いたコンテンツを行うことができるよう、オンラインの活用研修を実施し、充実した研修を実施することができ、アンケートでの評価も概ね満足のいくものであるとの回答であったため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	特になし。
------------------------------------	-------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇支援ネットワークの充実

■計画【Plan】／実施事業

担当課	地域福祉課										
実施事業	事業No.	4205			ライフステージ						
	事業名	民生委員・児童委員・地区福祉委員会の活動支援			妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	社会的支援	ワーク・ライフ・バランス	貧困計画
	事業内容	民生委員・児童委員、主任児童委員が地域の最も身近な相談相手であることを市民に更に周知するとともに、様々な相談に応じることができるよう、研修の実施や情報提供を行うなど、安心して活動できるよう支援を行います。また、地区福祉委員会の活動を支援します。									
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	地域の身近な相談相手として民生委員・児童委員、主任児童委員への相談件数の増加を目指します。			○	○	○	○				★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
民生委員・児童委員、主任児童委員による児童に関する相談・支援件数	件	2,225	2,553			策定	3,300
						現在	3,300
できたこと(達成したこと)	コロナ禍においても、感染拡大防止に留意しながら相談・支援活動を継続できました。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	コロナ禍の影響により、民生委員活動を周知できる機会が減少しています。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	民生委員・児童委員、主任児童委員への相談件数を増加させることができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	民生委員・児童委員、主任児童委員が最も身近な相談相手であることを市民に更に周知していきます。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	感染防止対策に留意しながら、民生委員活動の周知を進め、相談件数の増加を目指します。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	道路課								
実施事業	事業No.	4301			ライフステージ				
	事業名	道路（歩道）の整備			妊娠・出産期	就学前期	小中学校期		
	事業内容	通学路や生活道路において、歩車分離を図り、歩行者の安全を確保するとともに、子育て中の親子や高齢者、障害者が安全かつ円滑に移動できるよう歩道の段差解消や改良を行います。						青年・若者期	社会的支援
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	歩道の段差解消工事等を実施。			○	○	○			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
歩道改良工事の実施	m	111	193			策定	100
						現在	500
できたこと(達成したこと)	交通量の多い路線から優先的に歩者分離段差解消工事等を実施したことにより、歩行者の安全を確保できた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	例年多数の要望が寄せられるため、整備までに時間を要することがある。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	歩行者の安全を確保するための工事ができているため。
A		
活動目的を達成するための課題	周辺住民の事業に対する理解・協力。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	事業の費用対効果を精査の上、順次整備を進めるとともに、周辺住民への丁寧な説明を心掛ける。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	公園緑地課						
実施事業	事業No.	4302	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	公園等の整備及び維持補修	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	身近な憩いやレクリエーションの場として、子どもや子ども連れが利用しやすい公園等の整備及び維持補修を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度まで公園の再整備工事を3~5箇所(年)実施する。		○	○	○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
遊具の更新・設置を行った公園数	箇所	4	3			策定	3~5
						現在	3~5
できたこと(達成したこと)	遊具やその他の公園施設を更新、設置したことにより、公園利用者の増加が図れた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	公園利用者が増加したため。
A		
活動目的を達成するための課題	公園利用者の要望は多岐にわたるため、要望の集約が難しい。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	地元自治会等と協議を行い、地域ニーズに合致した公園づくりを進める。
------------------------------------	-----------------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	交通政策課						
実施事業	事業No.	4303	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	交通安全啓発・指導	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	交通安全教室を市内の幼稚園や保育所、小・中・高等学校で実施します。また、体験型の教室を実施するほか、自転車乗車時におけるヘルメット着用の推進等に努めます。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	令和6年度までに交通安全教室の開催回数を120回にするため、教室内容を充実させ、コロナ禍においてもリモートによる開催を各施設へ提案し、実施する。			○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
交通安全教室の実施（回数、参加者）	回	96	111			策定	120
						現在	120
	人	28,980	35,267			策定	37,000
						現在	37,000
できたこと（達成したこと）	小・中・高等学校：リモートによる開催（48回） 幼稚園・保育園：DVD貸出による開催（63回）						
できなかったこと（達成できなかったこと）	幼稚園・保育園における実地指導（新型コロナの影響）						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	<ul style="list-style-type: none"> 案内はするものの開催に至らなかった施設があったため。 幼稚園・保育園における実地指導ができなかったため。（新型コロナの影響）
B		
活動目的を達成するための課題	当事業への理解と新型コロナの終息。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	当事業への理解と重要性について、引き続き周知する。
------------------------------------	---------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	危機管理課						
実施事業	事業No.	4304	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	防犯に関する広報・啓発	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	
	事業内容	子どもが安全に暮らせる地域づくりのために、警察や関係団体、地域住民と連携した防犯に関する広報・啓発を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 茨木警察署主催の市役所内での防犯啓発イベントへの支援 茨木防犯協会へ青色防犯パトロール車等の貸与を行い、防犯活動への支援 		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
警察や関係団体と連携した啓発行事の実施	回	1	2			策定	2
						現在	2
防犯協会への青色防犯パトロール車の貸与	台	6	6			策定	6
						現在	6
できたこと(達成したこと)	防犯協会活動の支援や防犯協会及び茨木警察署との連携した防犯啓発に関する取組、地域による青色防犯パトロール活動の支援を行うことにより、本市の犯罪件数の減少につなげている。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	茨木防犯協会・茨木警察と連携し防犯に関する広報・啓発を支援することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	防犯協会の会員が高齢化し、青色防犯パトロール活動の担い手が今後不足していくことが懸念されている。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	防犯協会を通して地域の防犯活動を支援し、防犯パトロール活動に必要な車両の整備、更新を年次的に進めていく。 また、パトロール活動の担い手については、防犯協会と連携して、各種団体等に活動の周知を行い、加入を促す。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	危機管理課						
実 施 事 業	事業No.	4305	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	防犯カメラ設置補助	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	屋外の公共空間で発生する子どもや女性への犯罪の抑止を図るため、防犯カメラを設置する事業に対し、補助金を交付します。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等が防犯カメラを設置する際に設置費用を補助 令和3年度から令和7年度までは設置費用の3/4(上限15万円)を補助 		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
防犯カメラ設置事業補助金	台	11	19			策定	20
						現在	20
刑法犯認知件数(1月から12月)	件	1,466	1,367			策定	1,000
						現在	1,000
できたこと(達成したこと)	防犯カメラ設置補助制度を活用して、自治会により新たに19台の防犯カメラが設置された。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	予算枠20台分全ての設置ができなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	令和3年度より補助額・補助率の拡充を行った結果、多くの自治会等に本補助金を活用し設置することができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	設置に関する申請手続きが煩雑であり、申請途中にてキャンセルする自治会等がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	申請の手引きの周知や、申請に際して関係機関との連携等、自治会等が申請から設置までスムーズに行えるように手助けする。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	危機管理課						
実 施 事 業	事業No.	4306	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	啓発冊子（防災ハンドブック）作成配布	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年 ・若者期	
	事業内容	女性や子ども、高齢者、障害者、外国人等の多様な主体に配慮した防災ハンドブックを作成配布し、市民一人ひとりの防災意識の向上を図ります。					
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 市外からの転入者に対して配布 出前講座や防災訓練等の機会を通じて、配布・周知を実施 冊子の増刷に伴い、適宜記載内容の見直しを実施（1～2年に1回） 		○	○	○	○	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
防災ハンドブック増刷	千円	869	605			策定	状況に応じて印刷
						現在	状況に応じて印刷
	冊	15,000	10,000			策定	状況に応じて印刷
						現在	状況に応じて印刷
できたこと(達成したこと)	冊子の増刷に伴い、記載内容を最新の情報に更新。						
できなかったこと (達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民参加型の防災訓練が実施できなかったため、十分に配布・周知が出来なかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	記載内容の見直しはできたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、訓練等の市民を対象とした行事が減少したため、十分に配布が行えず、市民の防災意識の向上に寄与したとは言い難いため。
B		
活動目的を達成するための課題	市民の防災意識の向上に繋げられるよう、多様な広報媒体を用いて、防災ハンドブックの周知・啓発に努める。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	防災と深い関わりのある日（大阪北部地震の発災日、防災の日）等に、市広報誌やホームページ・SNS を活用して、定期的に市民に対して防災意識の啓発を実施していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	IV 社会全体で子育て家庭や子ども・若者を支援できる環境づくり
施策の方向	◇安全で安心な育成環境

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	4307	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	児童・生徒の安全対策	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年 ・若者期
	事業内容	市内小学校児童の安全な通学のために、子どもの安全見守り隊による見守り活動、通学路の安全点検などの取組を通して子どもを見守るネットワーク作りを推進します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	子どもの登下校時の見守り（防犯・安全の観点より）				○		

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
子どもの安全見守り隊	人	1,176	1,191			策定	1,300以上
						現在	1,081
できたこと(達成したこと)	子どもの安全見守り隊の活動に交付金を給付し支援することにより適切に推進することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	子どもの安全見守り隊の担い手を確保する。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	子どもの安全見守り隊の担い手が減少傾向にある中、担い手の確保ができなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	隊員の高齢化等により、人員が減少しているため、興味を持ってもらえるような広報が必要である。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度内に、各校へ見守り隊募集の広報の依頼。保護者への啓発も各校にて実施する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課						
実施事業	事業No.	5001	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	生活保護世帯に対する教育扶助の支給	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	生活保護受給者において、教育扶助が必要な場合に支給します。					
計画内容 (具体的な活動計画を簡条書きで記述)	月々の生活保護費に加え、必要に応じて国の基準に基づき、教育扶助費を認定し、支給する。						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、教育扶助が必要な場合に実施。	世帯	97	99			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	生活保護世帯において、教育扶助が必要な場合に支給した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	生活保護世帯に対して、教育扶助を適切に支給することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、生活保護世帯に対する教育扶助を必要に応じ適切に支給していく。
------------------------------------	-------------------------------------

教育扶助：学用品費、教材代、給食費等の義務教育に必要な費用

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課							
実施事業	事業No.	5002	ライフステージ					
	事業名	生活保護世帯の高校生に対する生業扶助の支給	妊娠・出産期	就学前期	小・中学校期	青年・若者期	社会的支援 ・バランス ワーク・ライフ	貧困計画
	事業内容	生活保護受給者において、高校生の生業扶助が必要な場合に支給します。						
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	月々の生活保護費に加え、必要に応じて国の基準に基づく生業扶助費を認定し、支給する。						★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、高校生の生業扶助が必要な場合に支給	世帯	57	55			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	生活保護世帯において、生業扶助が必要な場合に支給した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	生活保護世帯に対して、生業扶助を適切に支給することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、生活保護世帯に対する生業扶助を必要に応じ適切に支給していく。
------------------------------------	-------------------------------------

生業扶助：高校就学費用（入学費、教材代、クラブ活動費等）
生業に必要な資金・器具・資材及び技能習得費用等

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	学校教育推進課						
実施事業	事業No.	5003	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	ゆめ実現支援事業	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	奨学金に関する説明会や個別相談会の実施、奨学金冊子の配布を通して、きめ細かく奨学金に関する情報提供を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、広報やHPに説明会や相談事業の周知。 中学校3年生へ(夢を実現する奨学金)冊子の配付。 				○	○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
奨学金個別相談(延べ件数)	件数	180	146			策定	240
						現在	146
奨学金個別相談(新規件数)	新規相談件数	134	226			策定	150
						現在	226
できたこと(達成したこと)	<ul style="list-style-type: none"> 年間21回の説明会を実施し奨学金に関する情報提供を行った。 個別相談会を実施した。 奨学金の冊子を作成し配付した。 						
できなかったこと(達成できなかったこと)	家庭の状況が変わることで急遽奨学金が必要になるケースがあり、その時点では対応が間に合わない。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	説明会や情報提供、個別相談は実施できたが、更なる周知が必要であるため。
B		
活動目的を達成するための課題	引き続き、広報やHPに説明会や相談事業の周知。中学校3年生へ(夢を実現する奨学金)冊子を配付する。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、広報やHPに説明会や相談事業の周知。中学校3年生へ(夢を実現する奨学金)冊子を配付する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担 当 課	福祉総合相談課								
実 施 事 業	事業No.	5004	ライフステージ				社会的支援	WLB	貧困計画
	事業名	生活困窮者自立支援事業	妊娠出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期			
	事業内容	経済的に困窮している方(世帯)のみならず、複合的な課題を抱え困っている方(世帯)に対して、対象者とともに自立に向けた具体的なプランを作成し、関係機関との連携を図りながら、伴走型の支援を行います。							
計 画 内 容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> 来談者が自身で困りを解消できるよう伴奏型の支援を実施(継続) 来庁が困難な対象者に対し、アウトリーチによる継続支援を実施(継続) 							★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
①相談受付件数	人	2,039	1,155			策定	538
						現在	600
②相談実績(支援実績延べ回数)	回	6,471	6,434			策定	4,117
						現在	6,000
できたこと(達成したこと)	目標値を大きく上回る新規相談受付、支援を実施。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	各対象者に一定の時間をかけた伴奏型の支援が不十分。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	活動指標は目標を大きく超えて達成。コロナの影響により、生活困窮に関する相談のニーズが増大したが、それを受け止め、必要とされる支援を提供することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	コロナの影響で対象者数が増大した分、伴奏型の支援が不十分なケースが生じている。自立支援機関内で対応できる人員には限りがあり、地域資源の開拓及び連携強化が必要。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	日々の相談支援において、自立支援機関内で完結させるのではなく、地域や他の支援機関と協力して支援を実施する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	人権・男女共生課						
実施事業	事業No.	5005	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	いのち・愛・ゆめセンター総合相談	妊娠出産期	就学前期	小中学校期		青年・若者期
	事業内容	生活全般に係る課題に応じ、関係機関と連携した包括的・継続的な助言・指導を実施します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	相談事業の周知・広報を引き続き行う。 関係課、関係機関との連携促進に向け、担当者間の連絡・情報共有を一層進める。					★	

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
総合相談件数	件	2,182	1,522			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	長期化するコロナ禍において、対象者の生活課題や困りごと、不安などに寄り添った対応を行った。また、くらし設計相談による専門相談や多文化共生支援事業による外国人住民に対する相談の拾い上げなどにより、相談の間口を広げる取組みを行った。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	ケース検討会を開催するうえでコロナ禍を理由に参加を見合わせる関係機関が多く、相談者への効果的な支援方を効率よく検討することが難しかった。また、コロナ禍による感染防止対策として対面相談が減少したことにより、初回相談のみで継続につながらないケースが見受けられた。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ関係の相談が減少したことにより相談件数が減少したが、長期・複雑化している相談は増加傾向である。伴走的支援により継続的な相談につながっているケースや、機関連携により対応できた事例等があったため。
B		
活動目的を達成するための課題	今後予定されている重層的支援体制整備事業において、より地域に密着した総合相談の役割や位置づけ等の整理を行って行く必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度、福祉部の行う重層的支援体制整備事業の連携会議に参加する等し、位置づけや今後の展開について調整を行う。 令和5年度、それらを踏まえて総合相談の方向性を定める。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課					
実施事業	事業No.	5006			ライフステージ	
	事業名	生活保護世帯に対する健康管理支援			妊娠・出産期	就学前期
	事業内容	生活保護受給者において、健康管理支援が必要な場合に実施します。				
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	子ども・若者がいる生活保護世帯において、健康管理支援が必要な場合に実施する。			社会的支援	ワーク・ライフ・バランス	貧困計画
						★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、健康管理支援が必要な場合に実施。	人	63	109			策定	-
						現在	-
できたこと(達成したこと)	子ども・若者がいる生活保護世帯において、必要に応じて健康管理支援を実施した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭訪問を実施できない期間があった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の影響で、支援が十分に実施できない期間があったため。
B		
活動目的を達成するための課題	健康に関心がない世帯が多く、支援を希望されないことや助言指導等を行っても効果がみられないことがある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	引き続き、ケースワーカーと連携しながら必要に応じて健康管理支援を行う。
------------------------------------	-------------------------------------

健康管理支援：

生活保護受給者の健康や受診に関する相談等に対し、保健師等が助言指導等を行い、生活保護受給者自ら健康の保持・増進に努められるよう支援を行うこと。

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	生活福祉課					
実施事業	事業No.	5007	ライフステージ			
	事業名	生活保護世帯の子どもと養育者に対する食育支援の実施	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期
	事業内容	生活保護世帯の子ども（小学生～高校生）とその養育者を対象に、管理栄養士、保健師、ケースワーカーによる家庭訪問と子どもへの健康教育（調理実習を含む）を実施し、子どもたちがバランスの良い食事について理解し、調理する力をつけ、将来生活習慣病になることを予防します。				
計画内容 （具体的な活動計画を簡条書きで記述）	生活保護世帯の子ども（小学4～6年生）とその養育者を対象に、管理栄養士が家庭訪問を行い、栄養指導を実施する。また、生活保護世帯の子ども（小学生～高校生）を対象に、地域での健康教育（調理実習を含む）を年10回実施する。					★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
生活保護世帯において、食育支援が必要な場合に実施。	人(延)	訪問 11	訪問 6			策定	-
		調理 25	調理 15			現在	-
できたこと(達成したこと)	家庭訪問や調理実習を実施することで、調理に興味をもつ子どもが増え、食への関心を高めることができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭訪問を実施できない期間があった。また、一部調理実習も中止した。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	新型コロナウイルス感染症の影響で、支援が実施できない期間があったため。
B		
活動目的を達成するための課題	養育者の食育への関心が低く、調理実習への参加率が低い。継続的に食育支援を実施するため、他機関との連携による方法を検討する必要がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度は対象者が参加する機会を増やすため、健康教育（調理実習を含む）を地域で開催する以外に、委託業者が実施している料理教室に参加する形で開催することを計画している。今後の事業の方向性については課題を踏まえ検討していく。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	5008	ライフステージ			社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画	
	事業名	こども食堂への支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期		青年・若 者期
	事業内容	子どもに家庭的な雰囲気のある食事と学習や交流の場を提供する団体を支援します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	子どもに家庭的な雰囲気のある食事並びに学習及び交流の場を提供するこども食堂を運営する事業に対し、今後も継続して報償金を交付する。			★			

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
こども食堂のか所数	か所	16	16			策定	20
						現在	20
できたこと(達成したこと)	こども食堂開催に係る報償金を支給することで、寄付で賄うことができない食材の購入費等に充てることで、こども食堂の持続的な運営の一助となった。こども政策課が食材等の寄付受付の窓口となり、寄付者とこども食堂をつなぐことで、こども食堂の食材等に係る負担軽減につながった。市広報誌の特集紙面にこども食堂の活動を掲載し、こども食堂の活動の認知度向上を図った。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	新型コロナウイルス感染拡大防止策の一端で弁当配布形式に切り替えているこども食堂が増えており、現在の報償金支給だけでは感染対策グッズや弁当箱の容器購入に関する経済的負担を賄うことが困難であった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	コロナ禍においても感染予防対策を図りつつ、継続実施や弁当配布を行うなど、こども食堂を運営し、食の支援を進めることができたため。
B		
活動目的を達成するための課題	新型コロナウイルス感染拡大防止策の一端で弁当配布形式に切り替えているこども食堂が増えており、感染対策グッズや弁当箱の容器購入に関する経済的負担がある。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	既存の報償金以外の助成を検討する必要がある。
------------------------------------	------------------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	福祉総合相談課						
実施事業	事業No.	5009	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	生活困窮者自立支援事業における就労支援	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・若 者期	
	事業内容	ハローワークと連携を図り、就職活動に不安や課題のある方に対して就労支援を行います。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	就労を希望する対象者に対し、ハローワークの担当ナビゲーターと協力して支援を実施する(継続)。						

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い(優) B：活動による成果がやや高い(良) C：活動による成果が低い(可) -：活動による成果がみられない(又は非該当)〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
就労支援対象者数	人	103	98			策定	162
						現在	160
できたこと(達成したこと)	就労を希望する方に対し、必要な支援を提供した。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	十分な数の就労支援を実施できなかった。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	一定の就労支援は実施したものの、コロナにより新規相談件数が増大したことにより十分な数の就労支援を実施できなかったため。
B		
活動目的を達成するための課題	自立相談支援機関の人員にも限りがあり、時間をかけた就労支援のためには、地域資源や他機関との連携により、相談員の余力を生むことが必要。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	日々の相談支援において、自立支援機関内で完結させるのではなく、地域や他の支援機関と協力して支援を実施する。
------------------------------------	---

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	福祉総合相談課					
実施事業	事業No.	5010	ライフステージ			
	事業名	生活困窮者自立支援事業における就労準備支援	妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期
	事業内容	庁内職場実習やスマイルオフィスでの支援を通して、就労意欲と作業スキルの向上を図りながら、就労に向けて段階的な支援を行います。				
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内職場実習においては、年間40名、計200日程度の実習受け入れ（継続） ・ スマイルオフィスにおいては、年間で8名を会計年度任用職員として6か月間雇用（継続） 					★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
庁内職場実習利用者数	人	22	35			策定	60
						現在	40
スマイルオフィス利用者数	人	9	8			策定	10
						現在	8
できたこと(達成したこと)	(庁内実習) 希望者に対し、就労体験の機会を提供した。コロナの流行が少し収まったことにより、利用者が増加した。 (スマイルオフィス雇用) 8名中5名が企業またはA型事業所で就業開始。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	庁内実習の利用者数が目標を下回った。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	利用者数は概ね目標に達し、必要とする方に就労に向けた準備支援を提供できたため。
A		
活動目的を達成するための課題	事業の利用者に対し単に業務体験の機会を提供するだけでなく、より効果的な就労支援ができるようにプログラムを改善。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	R4年度のスミールオフィス雇用において、就労支援のカリキュラムを見直し、就労に向けてより効果的な支援を実施する。
------------------------------------	--

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	保育幼稚園事業課										
実施事業	事業No.	5011			ライフステージ						
	事業名	非婚のひとり親世帯における「みなし寡婦（夫）控除」の適用			妊娠・出産期	就学前期	小中学校期	青年・若者期	社会的支援	ワーク・ライフ・バランス	貧困計画
	事業内容	利用者負担額について「みなし寡婦（夫）控除」を適用することにより、非婚のひとり親世帯の経済的負担の軽減を図ります。									
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	令和3年度の市民税から「ひとり親控除」が創設されたことに伴い、令和3年9月分以降の利用者負担額をもって、「みなし寡婦（夫）控除」の制度を廃止とした。			★							

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
みなし寡婦（夫）の適用件数、適用人数	件	4	2	-	-	策定	-
		現在	-	-	-	-	-
	人	4	2	-	-	策定	-
		現在	-	-	-	-	-
できたこと(達成したこと)	寡婦（夫）控除が適用されていない非婚のひとり親世帯において、みなし寡婦（夫）控除を適用することで、経済的な負担を軽減することができた。						
できなかったこと(達成できなかったこと)	特になし。						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	寡婦（夫）控除が適用されていない非婚のひとり親世帯において、みなし寡婦（夫）控除を適用することで、経済的な負担を軽減することができたため。
A		
活動目的を達成するための課題	特になし。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	税制改正のため廃止。
------------------------------------	------------

■計画【Plan】／全体総括

施策の展開	V 子どもの貧困対策
-------	------------

■計画【Plan】／実施事業

担当課	こども政策課						
実施事業	事業No.	5012	ライフステージ				社会的支援 ワーク・ライフ ・バランス 貧困計画
	事業名	大学奨学金利子補給	妊娠 出産期	就学 前期	小中 学校期	青年・ 若者期	
	事業内容	市民が大学等を卒業した後に抱える奨学金返済の負担を軽減し、若者の市内への流入と定住促進を図るため、奨学金の利子相当額（上限2万円）を10年間給付します。					
計画内容 (具体的な活動計画を箇条書きで記述)	市民への周知等を含め、適正な事務執行に努める。					○	★

■実施【Do】

〈評価 A：活動による成果が高い（優） B：活動による成果がやや高い（良） C：活動による成果が低い（可） -：活動による成果がみられない（又は非該当）〉

活動指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	
大学奨学金利子補給事業 ①新規受給者数	人	166	149			策定	200
						現在	200
②継続受給者数	人	810	598			策定	1,200
						現在	1,200
③継続受給率	%	67.7	78.9			策定	75
						現在	80
できたこと(達成したこと)	大学奨学金利子補給対象者へのアンケート結果では、利子補給を受けることによって、茨木市への定住意向率が上昇している。(93.9%→95.3%)						
できなかったこと (達成できなかったこと)	給付対象者のうち、転勤や結婚等により市外転出者が昨年度より増加した。(30人→40人)						

■分析・評価【Check】

評価	評価の理由・根拠	申請数は減少したが、適切にサービス提供することができ、継続利用者のアンケート結果では定住意向率が上昇したため。
B		
活動目的を達成するための課題	支給対象者が毎年増加しデータ量が膨大になることから、事務が煩雑になり、不払い等の重大ミスが起こる可能性があるため、簡潔で正確なデータ管理方法が必要となる。	

■改善【Action】

評価と課題を踏まえ目的達成に向けて何を、いつまでに、どう取り組むのか	令和4年度に事務の適正化を図るため、データ運用をExcelからAccessに移行することを検討する。
------------------------------------	--